

Financial Results for FY2023
COPYRIGHT 2023 Cacco Inc.

かっこ株式会社 | 証券コード:4166
2024年2月14日

COXCO

2023年12月期 通期 決算説明資料

Our Business ・ 当社の主要サービスと各プロダクト

セキュリティ・ペイメント・データサイエンスの技術・ノウハウを活用し、ゲームチェンジャーのさまざまなチャレンジを支援するSaaS型アルゴリズムを開発・提供。

Security

不正検知サービス

不正注文検知サービス

O-PLUX

EC決済、転売などにおける代金未払い等の不正注文をリアルタイムに検知。国内導入実績No.1※1。

不正アクセス検知サービス

O-MOTION

金融機関・会員サイト等における不正アクセス・不正ログインをリアルタイムに検知。

フィッシング対策サービス
鉄壁PACK
for フィッシング

情報詐取の手段であるフィッシングメールやフィッシングドメイン検知、さらに詐取した個人情報で行うなりすましログインをワンストップで対策。

Payment

決済コンサルティングサービス

決済事業者やこれからBNPL決済を導入検討されている事業者に向けて、決済システムの提供、BNPL※2事業のコンサルティングを実施。

審査エンジンは「O-PLUX」を使用。

BNPLパッケージサービス

後払い決済導入パッケージ

SaaS-type BNPL system

初期投資の掛からない後払い決済導入パッケージ「SaaS型BNPLシステム」を提供。

決済事業者だけでなく、ECショッピングカート・大手EC事業者などにも提供。

Data Science

データサイエンスサービス

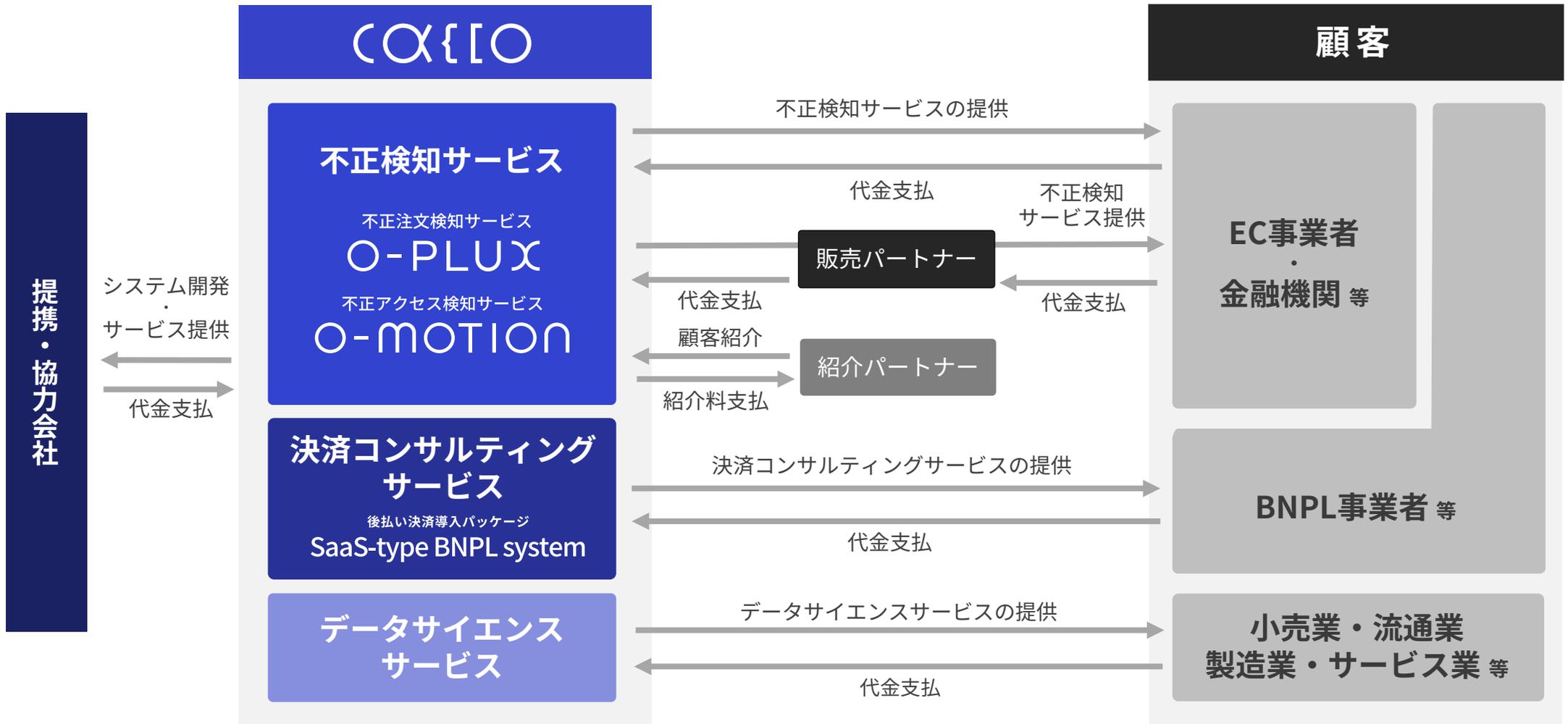
AI・統計・数理最適化の技術を用いたデータ解析及びアルゴリズムの開発・提供。

製造業の最適な生産計画作成や小売業の需要予測、コールセンターの最適なシフト作成などあらゆる分野にサービス提供。

※1 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2023年5月末日時点

※2 BNPL：Buy Now Pay Laterの略。後払い決済のこと。

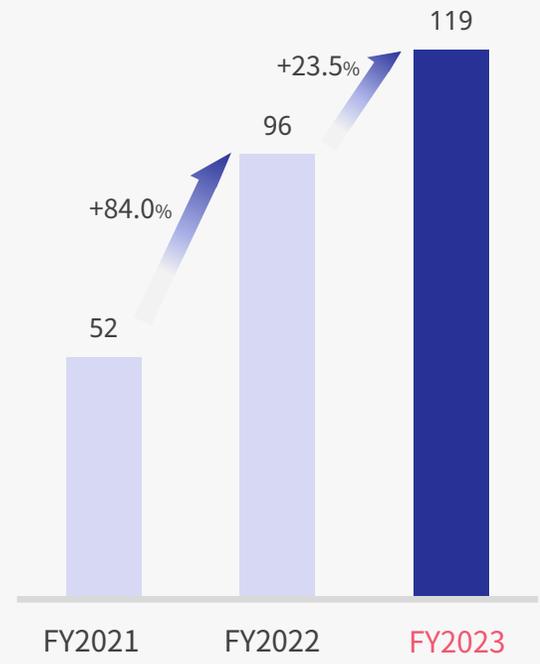
Our Business ・ 当社のビジネスの商流



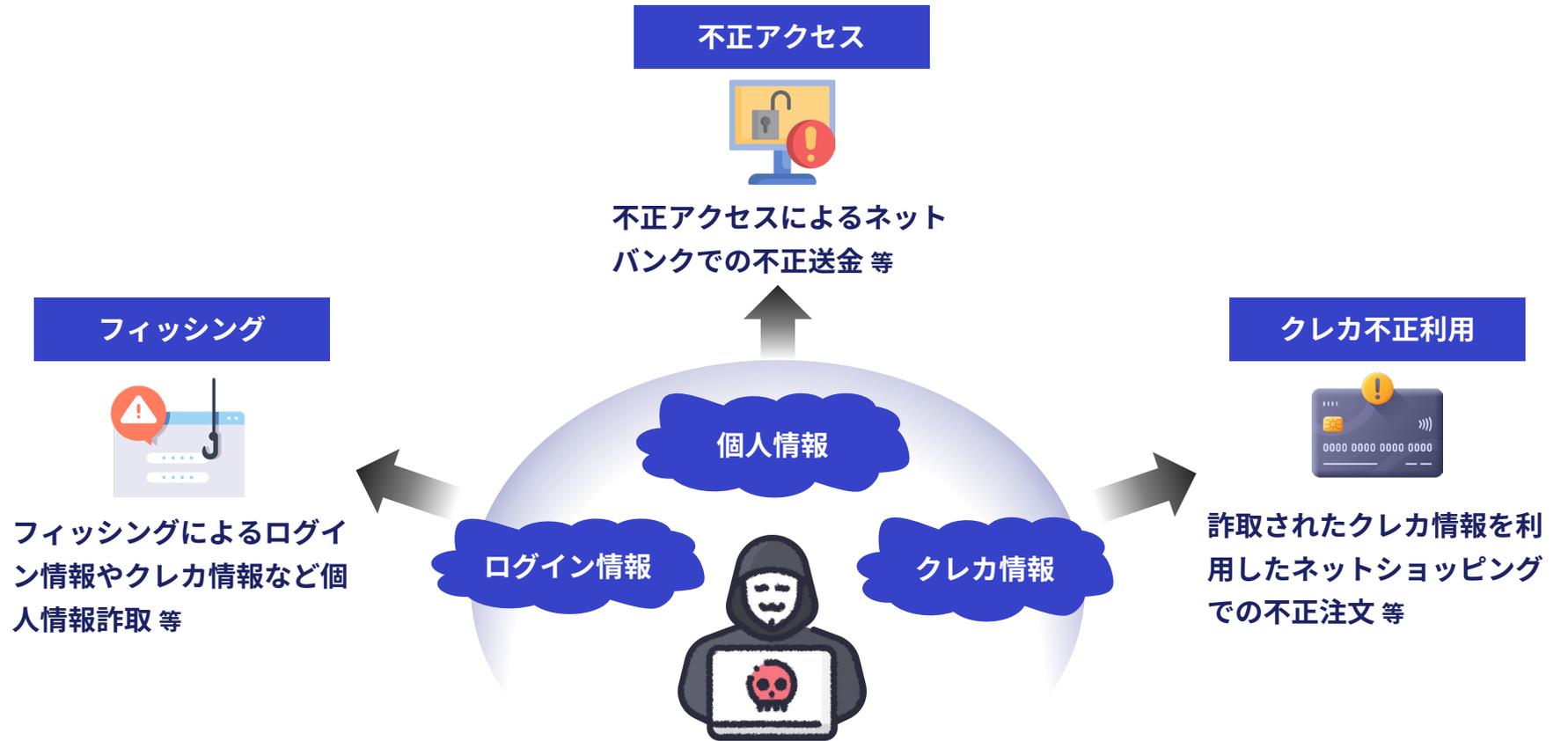
Our Business ・ かつこのメインビジネス — 急増する情報詐取・不正犯罪 —

フィッシングの報告件数は、2022年の96万件→2023年は119万件（YoY +23.5%）と急増中。
 フィッシングにより詐取した情報を悪用した不正犯罪が急増しており対策が急務となっています。

—— フィッシング報告件数 ——
 (件数単位：万件)

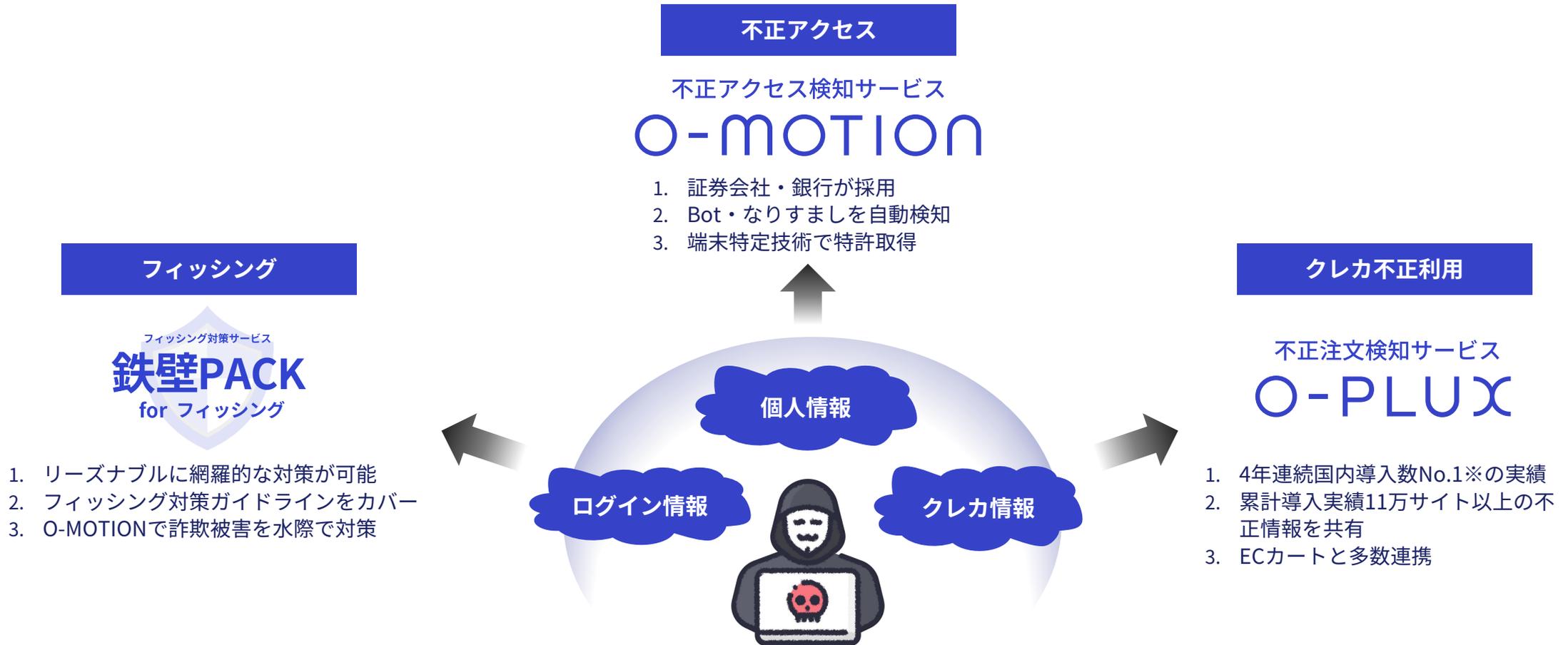


※フィッシング対策協議会「フィッシング報告件数」より



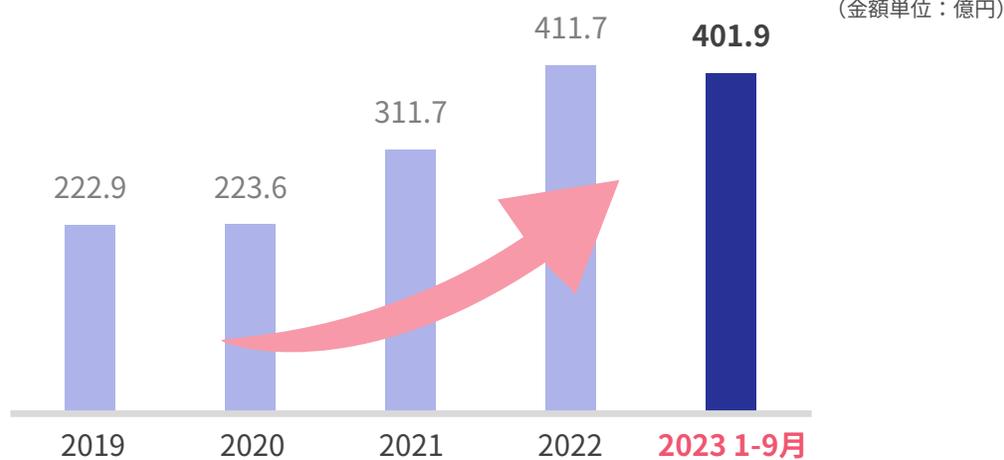
Our Business ・ かつこのメインビジネス — かつこの不正検知サービス —

かつこは安心安全なネットインフラ構築のために、ネットインフラの入口から出口までサポートしています。



不正対策への社会的要請はますます高まっており、不正検知サービスの市場規模はさらなる拡大が予測されます。

クレカ不正被害額（番号盗用）の推移



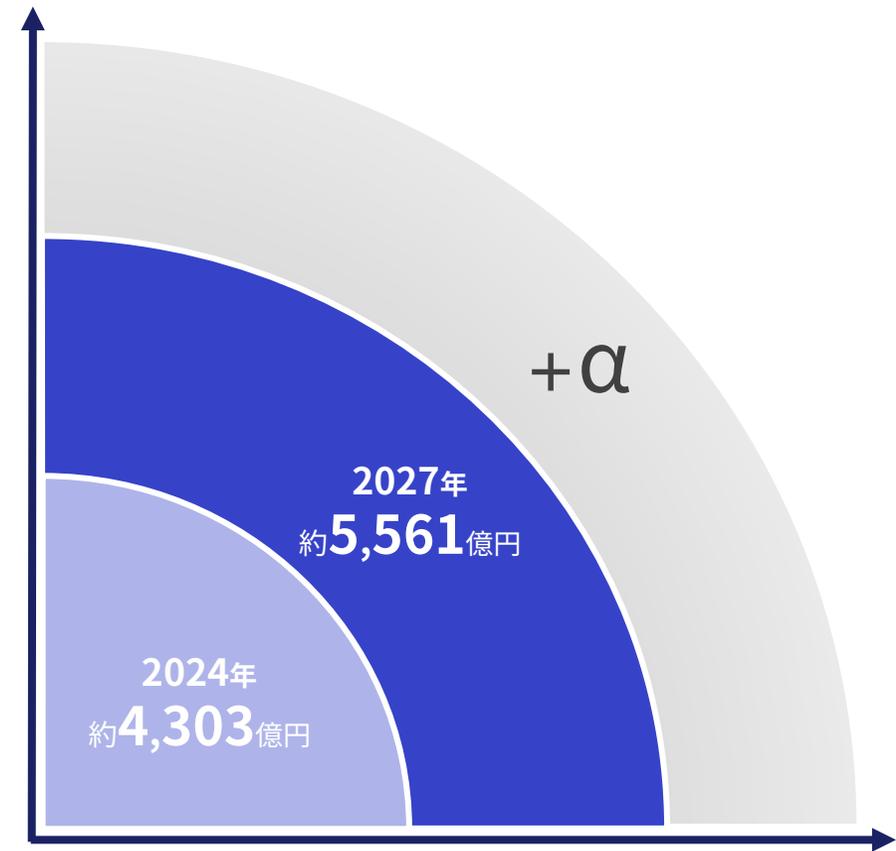
出典：一般社団法人日本クレジット協会「クレジットカード不正利用被害の発生状況」2023年12月

不正アクセス後の不正行為ランキング

- 1位 インターネットバンキングでの不正送金等
- 2位 インターネットショッピングでの不正購入
- 3位 メール盗み見等の情報の不正入手
- 4位 オンラインゲーム・コミュニティサイトの不正操作
- 5位 知人になりすましての情報発信

出典：警察庁・総務省・経済産業省 令和5年「不正アクセス行為の発生状況及びアクセス制御機能に関する技術の研究開発の状況(令和4年度)」

国内不正検知サービスの市場規模



出典：「FRAUD DETECTION AND PREVENTION Global Market Trajectory & Analytics GLOBAL INDUSTRY ANALYSTS.INC. 2021年5月」(1ドル=130円で計算)

Cacco Evolutionary Purpose

未来のゲームチェンジャーの「まずやってみよう」をカタチに

Cacco Evolutionary Purposeには、世の中をよりよくしていこうと挑戦する人や企業に寄り添い、日本経済の発展に貢献していきたいという想いが込められています。

創業当時、インターネット取引における不正は少なく、世の中に十分な機能を備えた不正検知サービスもありませんでしたが、私達は、近い将来、ECをはじめとするあらゆるインターネット取引において、多様かつ膨大な不正行為が発生するであろうと考えていました。

それから約10年、私達の予想通り、不正行為はあらゆるインターネット取引において発生しており、その手口はより複雑化するとともに、さらに進化・拡大を続けております。

『O-PLUX』は、2012年のリリース以降、進化する脅威にも十分対応できるよう開発を重ねてきた結果、現在では日本国内導入数No.1※のご評価をいただいております。

かっこは、今後も、セキュリティ・ペイメント・データサイエンスの技術で新しい価値を作り上げる会社として、Cacco Evolutionary Purposeを実現し、企業価値の持続的な向上を目指してまいります。



※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2023年5月末日時点

目次

- 1 2023年12月期 通期業績
- 2 2024年12月期 通期業績見通し
- 3 成長戦略
- 4 Appendix（会社概要・事業内容・その他参考資料）

2023年12月期 通期業績

Financial Results for FY2023



2023年12月期 通期業績・数値ハイライト

売上高

952百万円

YoY ▲11.5%
計画進捗率 102.0%

O-PLUX ストック収益※

652百万円

YoY ▲15.4%

※定額課金である月額料金+審査件数に応じた従量課金である審査料金

O-PLUX 解約率

4.58%

YoY +4.32pt

経常利益

▲117百万円

YoY ▲176.5%

全売上高に占めるストック収益比率

68.4%

YoY ▲3.1pt

O-PLUX 審査件数

5,835万件

YoY ▲16.7%

2023年12月期 通期業績・エグゼクティブサマリー

売上高はYoY ▲11.5%の952百万円

- 不正注文検知サービス「O-PLUX」において、主要取引先2社の取引停止による売上減少影響を受けたものの、EC事業者（直販）の新規顧客獲得が堅調に進捗したことにより、売上高は952百万円（YoY ▲11.5%）、計画進捗率102.0%で着地。

営業利益はYoY ▲161.1%の▲108百万円

- 前期に引き続きO-PLUXアーキテクチャ刷新による減価償却費のほか、セールスマーケティング・カスタマーサクセスを中心とした増員による体制整備、海外事業展開のためのテストマーケティング・ローカライズなど将来の収益獲得に向けた取り組みに投資をしつつ、費用の最適化をおこなったことで、営業利益は▲108百万円（YoY ▲161.1%）で着地。

特別損失（減損損失）を201百万円計上

- ソフトウェア等（不正注文検知サービス「O-PLUX」、SaaS型BNPLパッケージ）、その他（共用資産）において、主要取引先2社の取引停止による売上減少、将来収益の見通しの修正により、将来的に得られるキャッシュ・フローが後ろ倒しとなり経済的残存使用年数内での投資回収の不確実性を考慮し、特別損失（減損損失）を計201百万円計上。

2023年12月期 通期業績・特別損失（減損損失）の計上について

ソフトウェア等（不正注文検知サービス「O-PLUX」、SaaS型BNPLシステム）、その他（共用資産）の特別損失（減損損失）を計201百万円計上。

	対象	金額	事由
ソフトウェア等	不正注文検知サービス O-PLUX	131 百万円	主要取引先2社の取引停止による売上減少により当初見込んでいたキャッシュ・フローが減少し、経済的残存使用年数内での投資回収の不確実性を考慮し、減損損失を計上。
	後払い決済導入パッケージ SaaS-type BNPL system	61 百万円	収益貢献までのリードタイムが想定より長期化、BNPL市場動向や当社の成長戦略上の優先順位をふまえ、経済的残存使用年数内での投資回収の不確実性を考慮し、減損損失を計上。
その他	共用資産	9 百万円	
		合計： 201 百万円	

2024年12月期以降のPLへの影響として、減価償却費負担が年間63百万円減少。（2023年12月期の減価償却費は98百万円）

2023年12月期 通期業績・事業進捗サマリー

プロダクトの付加価値向上

サービス機能拡充

- 不正注文検知サービス「O-PLUX」
 - チャット決済サービス「BOTCHAN Payment」※1と連携。
 - チャットボットツール「qualva」※2と連携。
 - 株式会社Geolocation Technologyの独自のIP Geolocation技術と連携。
 - 「不正チェッカー」でクレジットマスター対策機能を提供開始。
 - 「O-PLUX」・「不正チェッカー」で転売対策のための加盟店横断型の買い回り検知機能を提供開始。

BOTCHAN 



- フィッシング対策サービス「鉄壁PACK for フィッシング」
 - フィッシングドメイン検知機能を提供開始。

フィッシング対策サービス
鉄壁PACK
for フィッシング

アライアンス拡大

他社審査エンジン連携

- テモナ株式会社の提供する不正注文検知&自動処理サービス「ECield(イーシールド)」の審査エンジンに不正注文検知サービス「O-PLUX」が採用。



新サービスリリース

新サービスリリース

- 後払い決済導入パッケージ「SaaS型BNPLシステム」を提供開始。
- 後払い決済導入パッケージ
SaaS-type BNPL system
- フィッシング対策サービス「鉄壁PACK for フィッシング」を提供開始。

フィッシング対策サービス
鉄壁PACK
for フィッシング

事業領域の拡大

業務提携・協業

新たに3社と業務提携・協業を開始。

2023年2月：バリュークリエーション株式会社とマーケティングDX分野において資本業務提携

2023年9月：株式会社インテリジェント ウェーブとクレジットカード不正被害削減に向けた協業を開始

2023年11月：株式会社ROBOT PAYMENTとプロダクト強化、AI活用領域で業務提携



海外展開

- インドネシアおよびシンガポールでのユースケース創出に向けて現在サービステスト導入検討企業との交渉と併行し、現地代理店が新規顧客開拓を実施中。テストユーザーと検証方法についても要件定義が進行中。また、新たにベトナムにおいて新規プロジェクトが始動。

※1 株式会社wevna! 提供のチャット型の決済サービス。

※2 株式会社PROFESSY 提供のチャットボットサービス。コンバージョン率を高めるためのさまざまな機能を兼ね備えたチャットボット。 © Cacco Inc.

2023年12月期 通期業績・業績数値ハイライト

全体売上高は952百万円 (YoY▲11.5%)、営業利益は▲108百万円 (YoY▲161.1%)、経常利益は▲117百万円 (YoY▲176.5%) で着地。

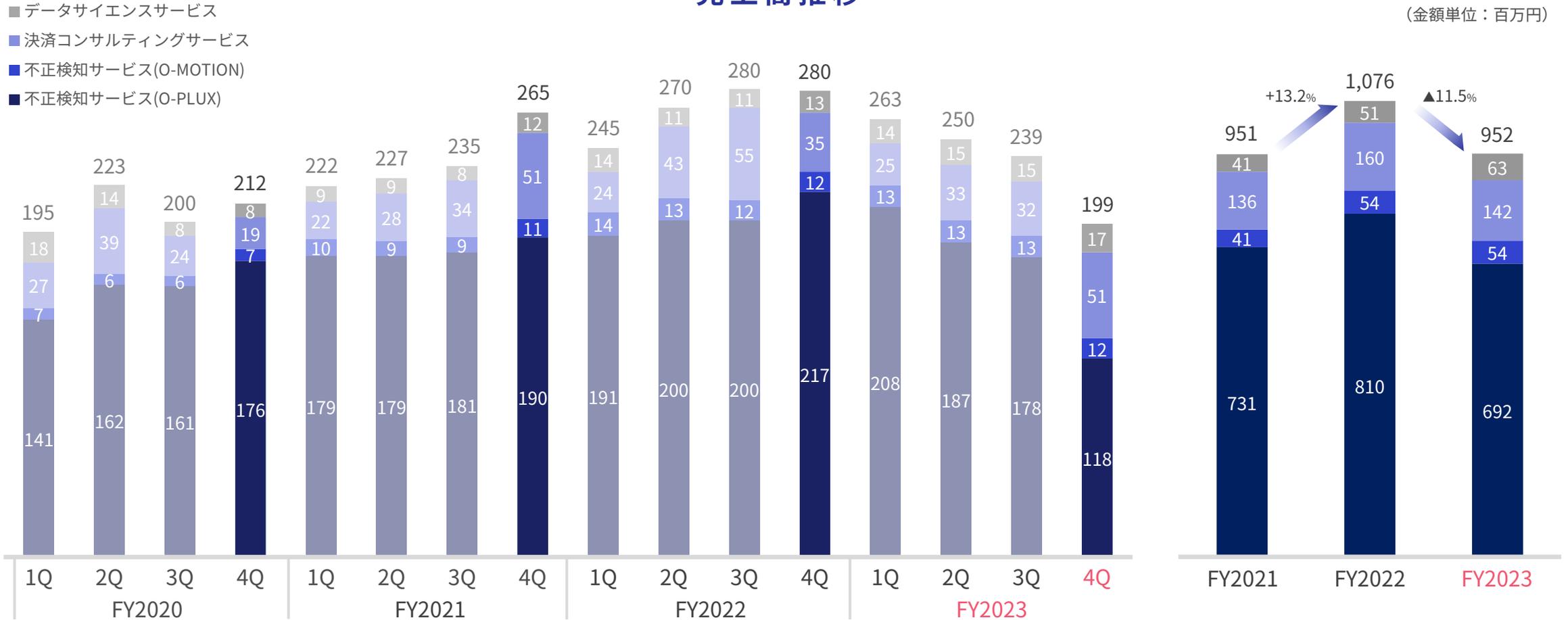
(金額単位：百万円)

	FY2022 通期	FY2023 通期	YoY 増減率	FY2023 通期予想	計画達成率
売 上 高	1,076	952	▲11.5%	933	102.0%
(不正検知サービス売上高)	865	747	▲13.7%	761	98.1%
営 業 利 益	176	▲108	▲161.1%	▲187	-
(営 業 利 益 率)	16.4%	▲11.3%	▲27.7pt	▲20.0%	-
経 常 利 益	154	▲117	▲176.5%	▲190	-
(経 常 利 益 率)	14.3%	▲12.4%	▲26.7pt	▲20.4%	-
当 期 純 利 益	100	▲320	▲419.8%	▲190	-
E P S (円)	38.16	▲121.13	▲417.4%	▲72.33	

2023年12月期 通期業績・売上高の推移

不正注文検知サービス「O-PLUX」において、主要取引先2社の取引停止による売上減少影響を受けたものの、EC事業者（直販）の新規顧客獲得が堅調に進捗したことにより、通期売上高は952百万円（YoY▲11.5%）、計画進捗率102.0%で着地。

売上高推移

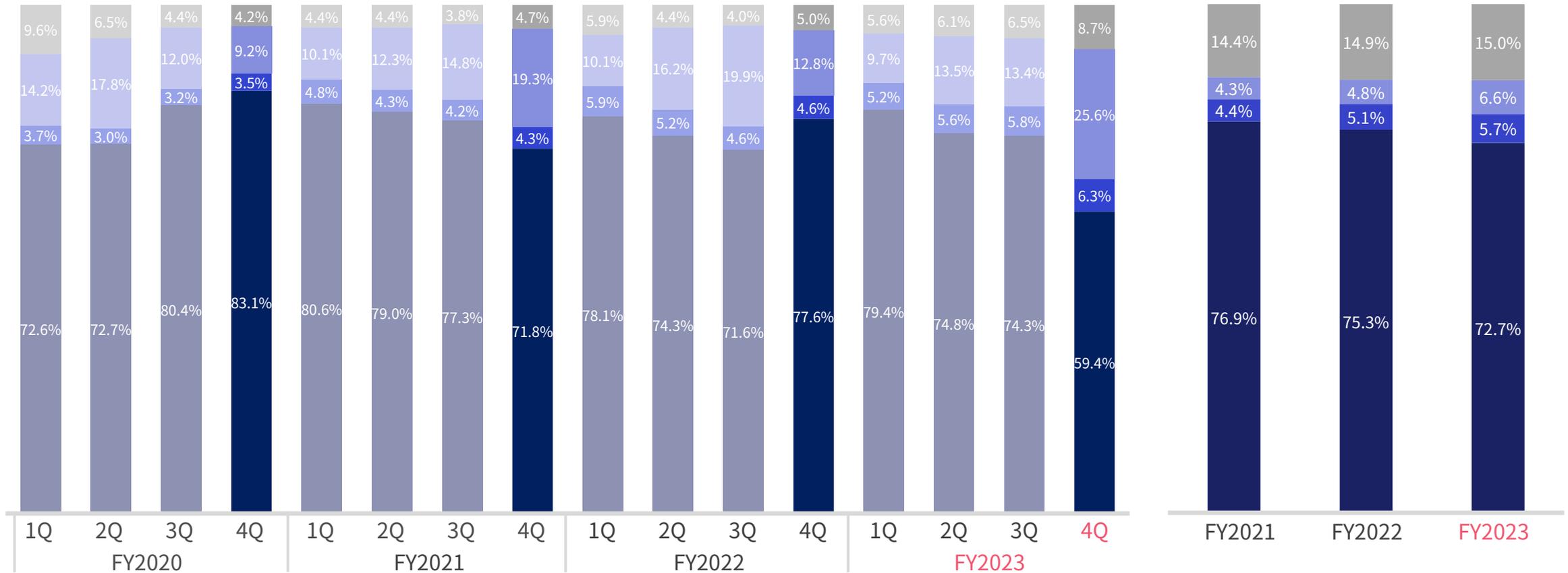


2023年12月期 通期業績・サービス別売上高構成比の推移

FY2023 4Qにおいて不正注文検知「O-PLUX」の主要取引先2社の取引停止による売上減少により、不正検知サービスの売上高構成比が低下、通期売上高構成比は78.4% (YoY▲1.9pt) に着地。

サービス別売上高構成比推移

■ 不正検知サービス(O-PLUX) ■ 不正検知サービス(O-MOTION) ■ 決済コンサルティングサービス ■ データサイエンスサービス



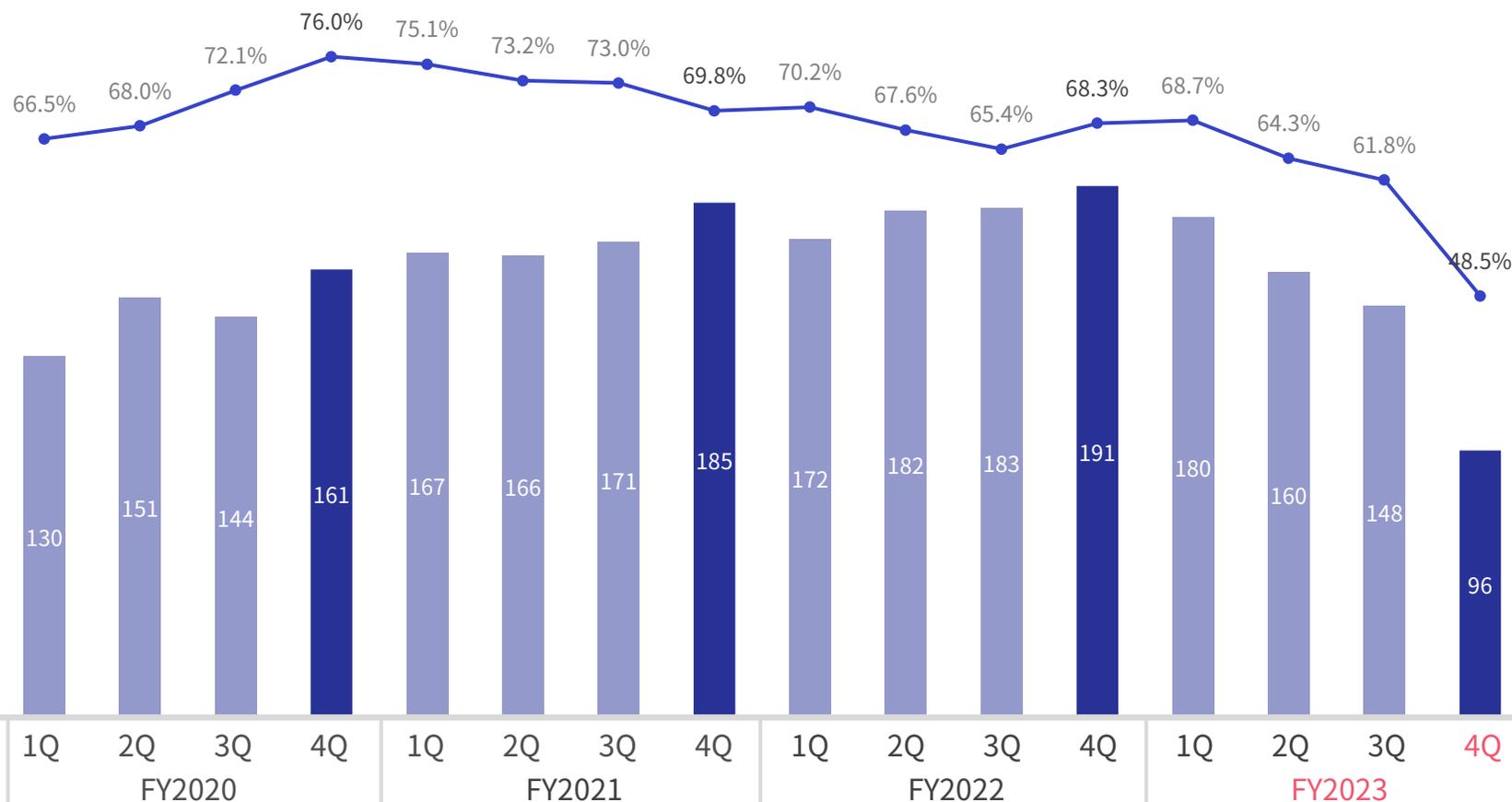
2023年12月期 通期業績・売上総利益の推移

通期売上総利益率は61.6% (YoY▲6.2pt)、金額ベースでは586百万円 (YoY▲19.7%) で着地。

- サーバー費/データ費の増加は主に円安、およびSaaS型BNPLシステム提供開始の影響。

売上総利益推移

■ 売上総利益 ● 売上総利益率



(金額単位：百万円)



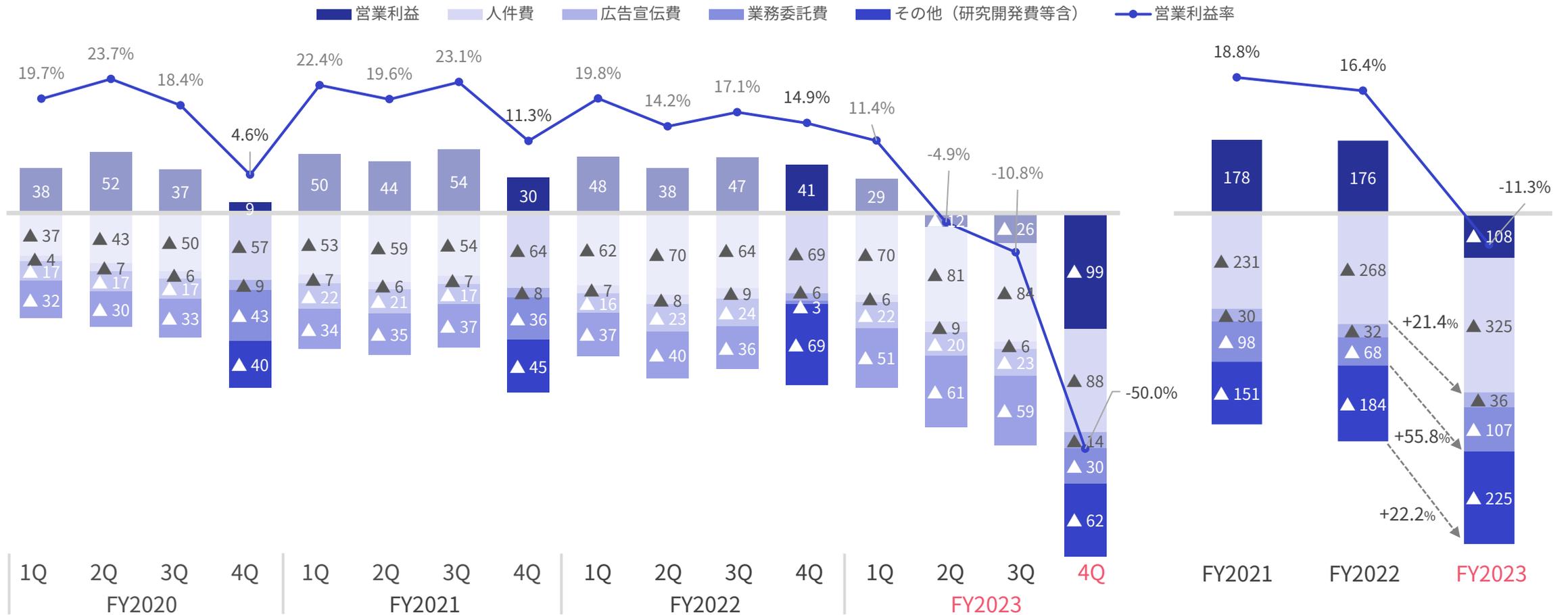
2023年12月期 通期業績・営業利益・販売費及び一般管理費の推移

通期営業利益は▲108百万円 (YoY ▲161.1%)、営業利益率は▲11.3% (YoY ▲27.7pt) で着地。

- セールスマーケティング・カスタマーサクセスを中心とした組織体制強化による人件費増加、海外展開に係る業務委託費、その他（研究開発費）の増加による影響。

営業利益・販売費及び一般管理費推移

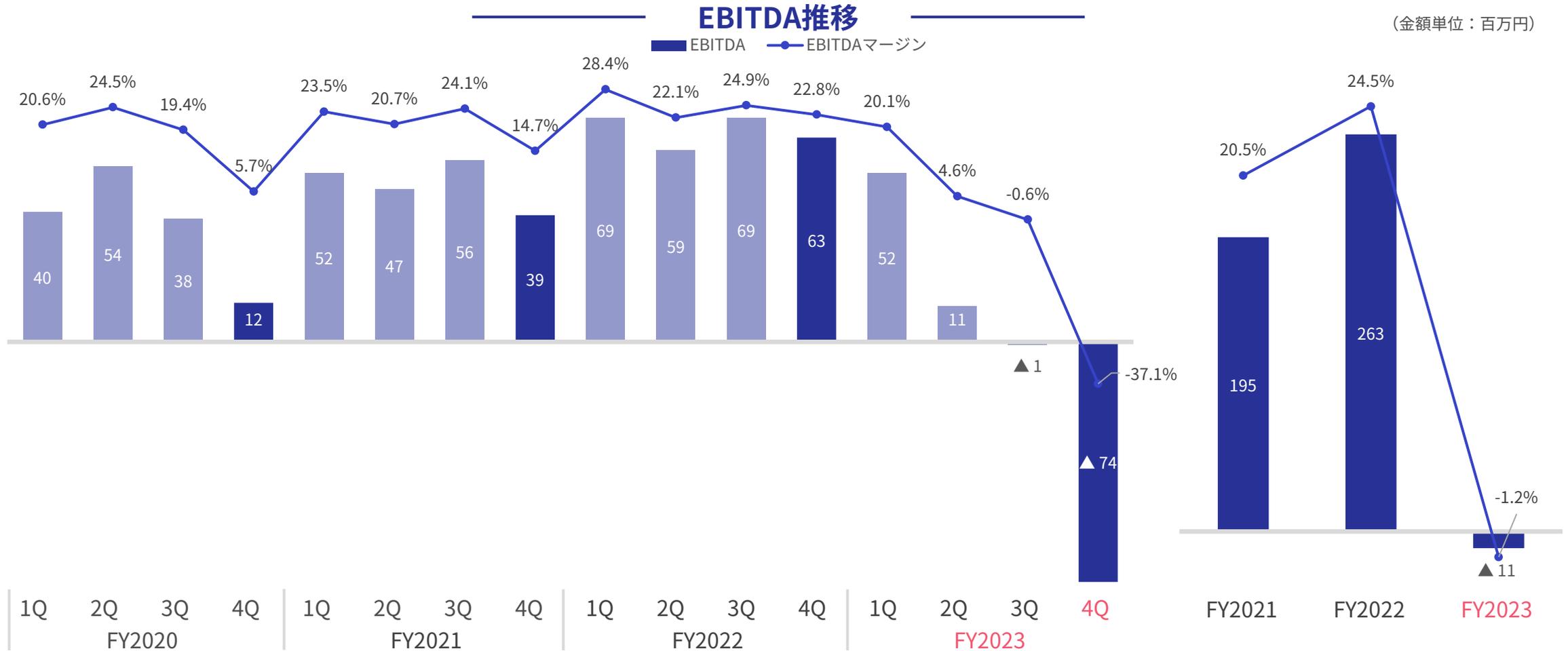
(金額単位：百万円)



2023年12月期 通期業績・EBITDAの推移

通期EBITDAは▲11百万円 (YoY▲104.2%)、EBITDAマージンは▲1.2% (YoY▲25.6pt)。

- 前頁同様セールスマーケティング・カスタマーサクセスを中心とした組織体制強化による人件費増加、海外展開に係る業務委託費、その他（研究開発費）の増加による影響。

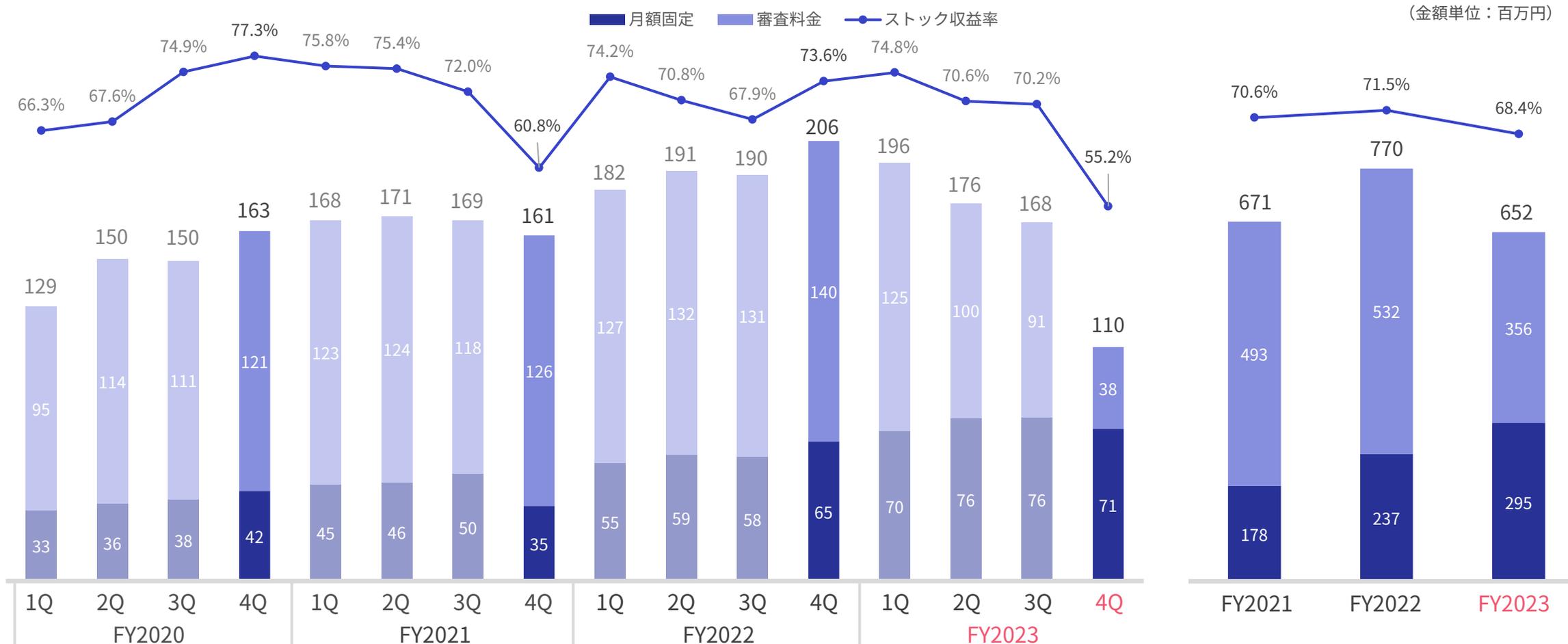


2023年12月期 通期業績・「O-PLUX」のストック収益の推移

通期の「O-PLUX」のストック収益は652百万円 (YoY▲15.4%)、ストック収益率は68.4% (YoY▲3.1pt) に着地。

- 主要取引先2社の取引停止による審査件数減少に伴い審査料金が大幅に減少。

「O-PLUX」のストック収益の推移



※ストック収益＝定額課金である月額料金＋審査件数に応じた従量課金である審査料金（「不正チェッカー」を含む）

※ストック収益率＝ストック収益÷売上高（全サービス合計）

© Cacco Inc.

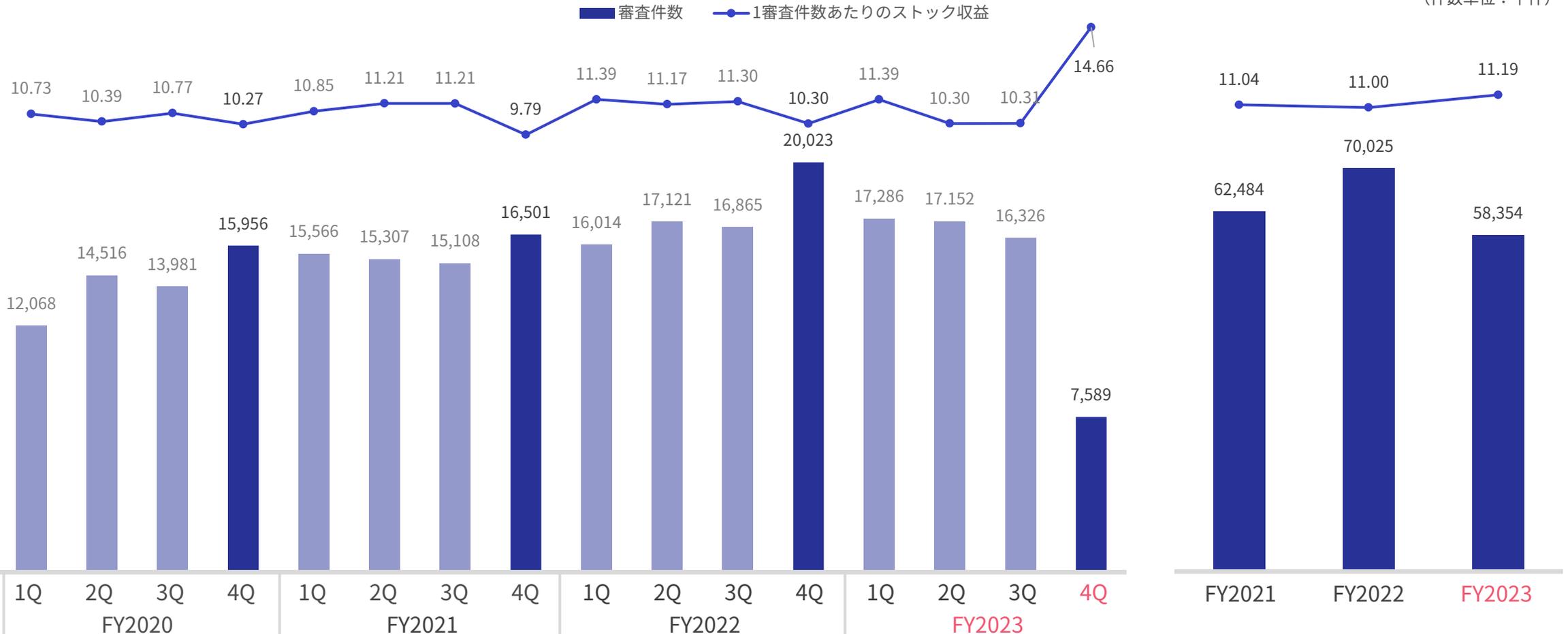
2023年12月期 通期業績・「O-PLUX」の審査件数の推移

通期の「O-PLUX」審査件数は、58,354千件（YoY ▲16.7%）で着地。

1審査件数あたりのストック収益は、従量課金である審査料金の売上比重が高い主要取引先2社の取引停止により上昇。

「O-PLUX」審査件数・1審査件数あたりのストック収益推移

（金額単位：円）
（件数単位：千件）

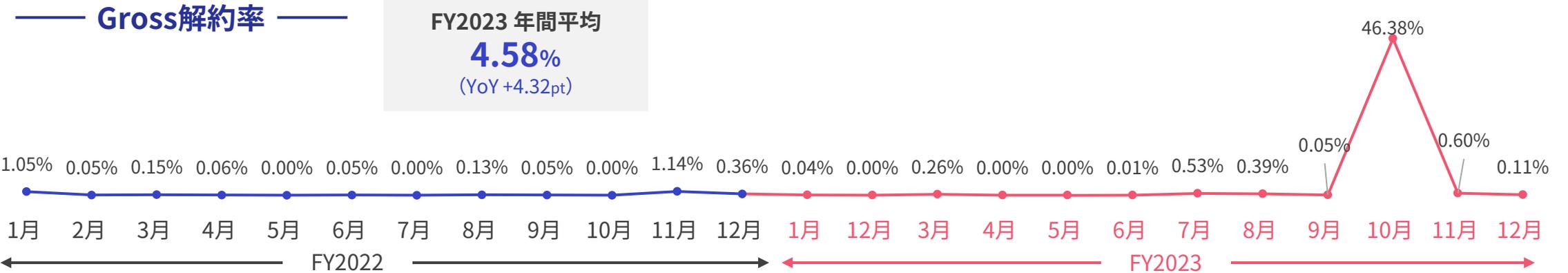


※ストック収益＝定額課金である月額料金＋審査件数に応じた従量課金である審査料金（「不正チェッカー」を含む）

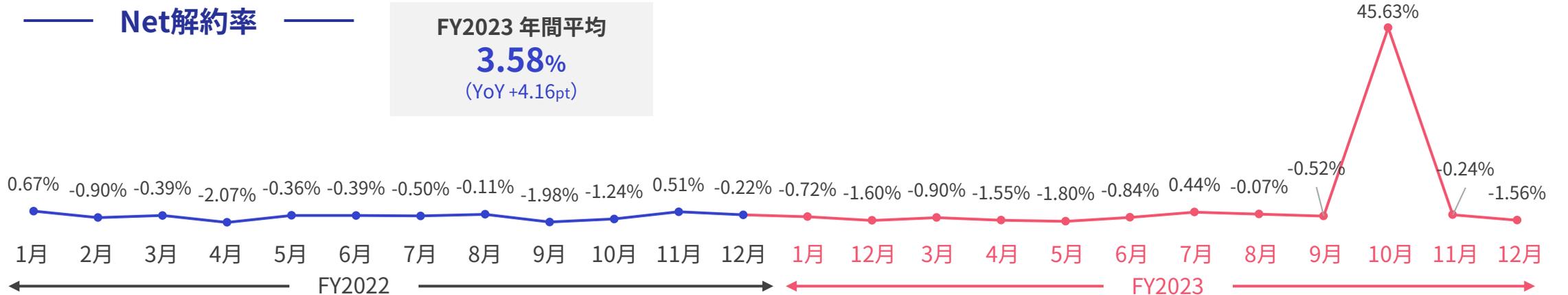
© Cacco Inc.

2023年12月期 通期業績・「O-PLUX」 月次解約率の推移

「O-PLUX」の月次解約率は、JPaS社※1およびGMO-PS社※2の主要顧客の取引停止（解約）により、2023年10月の解約率が大きく悪化。当該事象発生月以外の月次解約率は引き続き低位で推移。



※Gross解約率=当月解約ストック収益の年間平均÷当月初時点のストック収益



※Net解約率=(当月解約ストック収益の年間平均-当月新規ストック収益)÷当月初時点のストック収益

※1 JPaaS社：ジャックス・ペイメント・ソリューションズ株式会社

※2 GMO-PS社：GMOペイメントサービス株式会社

2023年12月期 通期業績・貸借対照表

(金額単位：百万円)

	FY2022 (実績)	FY2023 (実績)	YoY 増減率	主な要因
流動資産	1,094	1,077	▲1.5%	
(現預金)	962	941	▲2.2%	
固定資産	439	208	▲52.6%	ソフトウェア等・共用資産の特別損失（減損損失）計上に伴う減少
総資産	1,534	1,286	▲16.2%	
流動負債	161	131	▲18.5%	未払消費税等
固定負債	0	82	-	長期借入金の増加
純資産	1,373	1,072	▲21.9%	当期純損失の計上による利益剰余金の減少
自己資本比率	89.5%	83.4%	▲6.1pt	

2024年12月期 通期業績見通し

Forecast Financial Results of FY2024



2023年12月期 通期業績見通し・サマリー

(金額単位：百万円)

	FY2023 実績	FY2024 予想	YoY 増減率
売上高	952	713	▲25.1%
(不正検知サービス売上高)	747	570	▲23.7%
営業利益	▲108	▲304	-
(営業利益率)	▲11.3%	▲42.7%	-
経常利益	▲117	▲307	-
(経常利益率)	▲12.4%	▲43.0%	-
当期純利益	▲320	▲307	-
EPS (円)	▲121.13	▲115.29	-

売上高 YoY ▲25.1%

2023年12月期は不正検知サービス「O-PLUX」において、主要取引先であるジャックス・ペイメント・ソリューションズ株式会社・GMOペイメントサービス株式会社の2社の取引停止による売上減少影響が316百万円の見込み。2024年12月期は、当該影響により売上高は713百万円 (YoY ▲25.1%) を見込む。

営業利益 ▲304百万円

ソフトウェア等の減価償却費はYoY▲60百万円と2023年12月期の特別損失（減損損失）計上により減少したものの、セールス・マーケティング・R&D関連の人件費の増加等により、営業利益は▲304百万円を見込む。

成長戦略

Growth Strategy



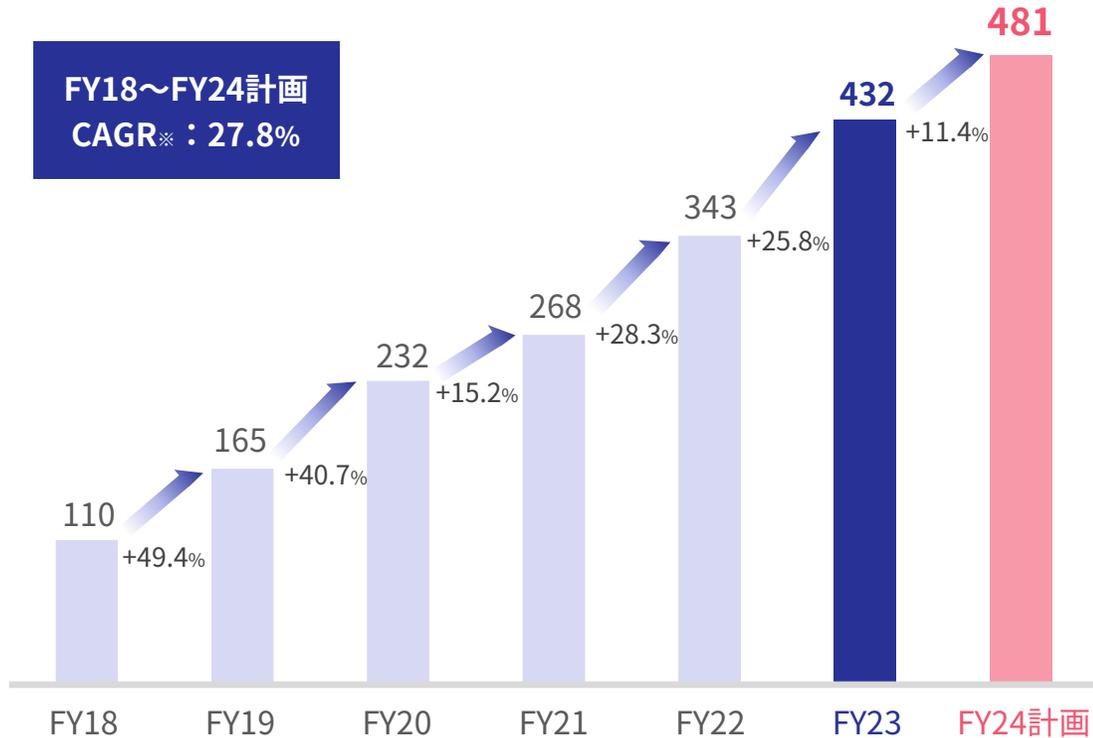
成長戦略・着実な戦略実行による収益構造の転換 —不正検知サービス—

2023年12月期において中核の不正注文検知サービス「O-PLUX」の主要取引先2社の取引停止により、2024年12月期の売上に316百万円の売上減少が見込まれる。主要取引先に依存していた収益構造を、成長戦略の1つである「EC不正検知領域の拡大戦略」により転換を図る。

不正検知サービス「O-PLUX」における EC事業者（直販）の売上推移

(金額単位：百万円)

FY18~FY24計画
CAGR※：27.8%



EC不正検知領域の拡大戦略

1

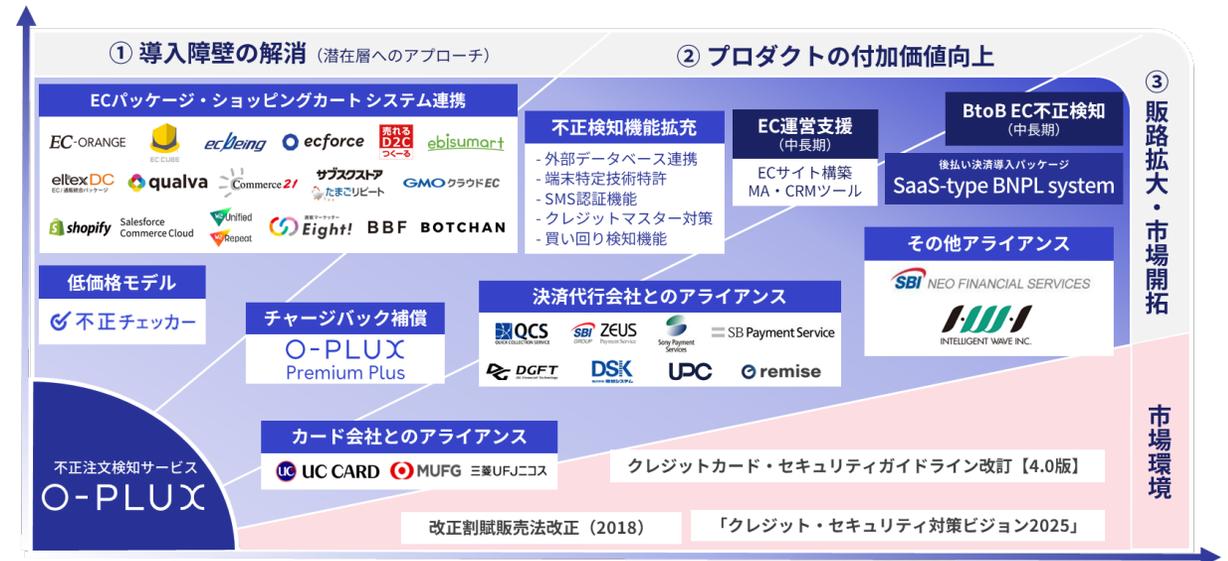
導入障壁の解消
(潜在層へのアプローチ)

2

プロダクトの付加価値向上

3

販路拡大・市場開拓



※CAGR: 「Compound Annual Growth Rate、複合年間成長率」複数年にわたる成長率から、1年あたりの幾何平均を求めたもの。

成長戦略・収益貢献の早期化による収益構造転換・ビジネスドメインの拡大

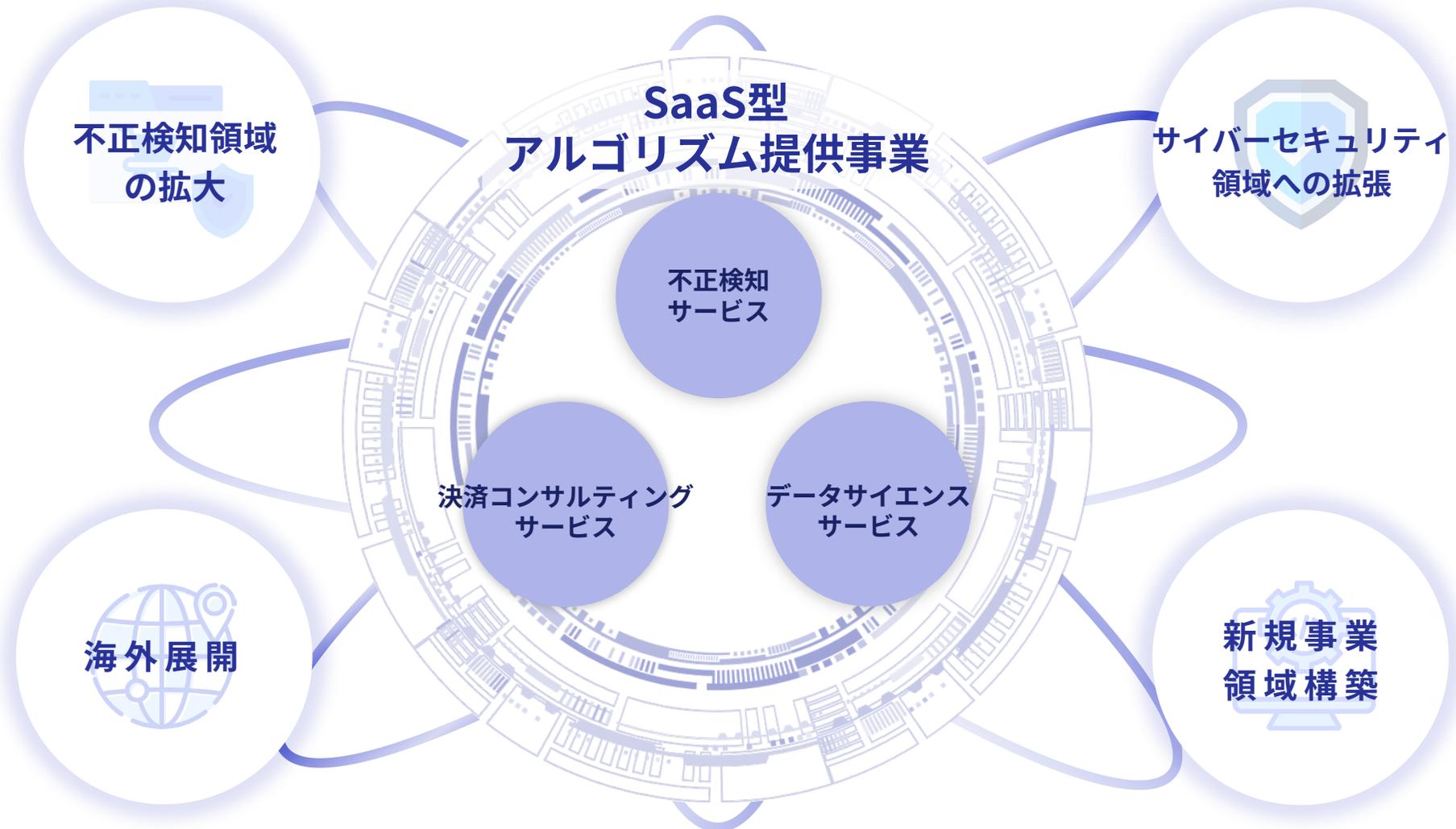


**O-PLUX以外のプロダクトの収益貢献の早期化を推進し、
ビジネスドメインの拡大をしていく。**

※PMF: 「Product Market Fit」 (プロダクトマーケットフィット)、製品 (サービスや商品) が特定の市場において適合している状態のこと。

成長戦略・事業拡大に向けた4つの成長戦略

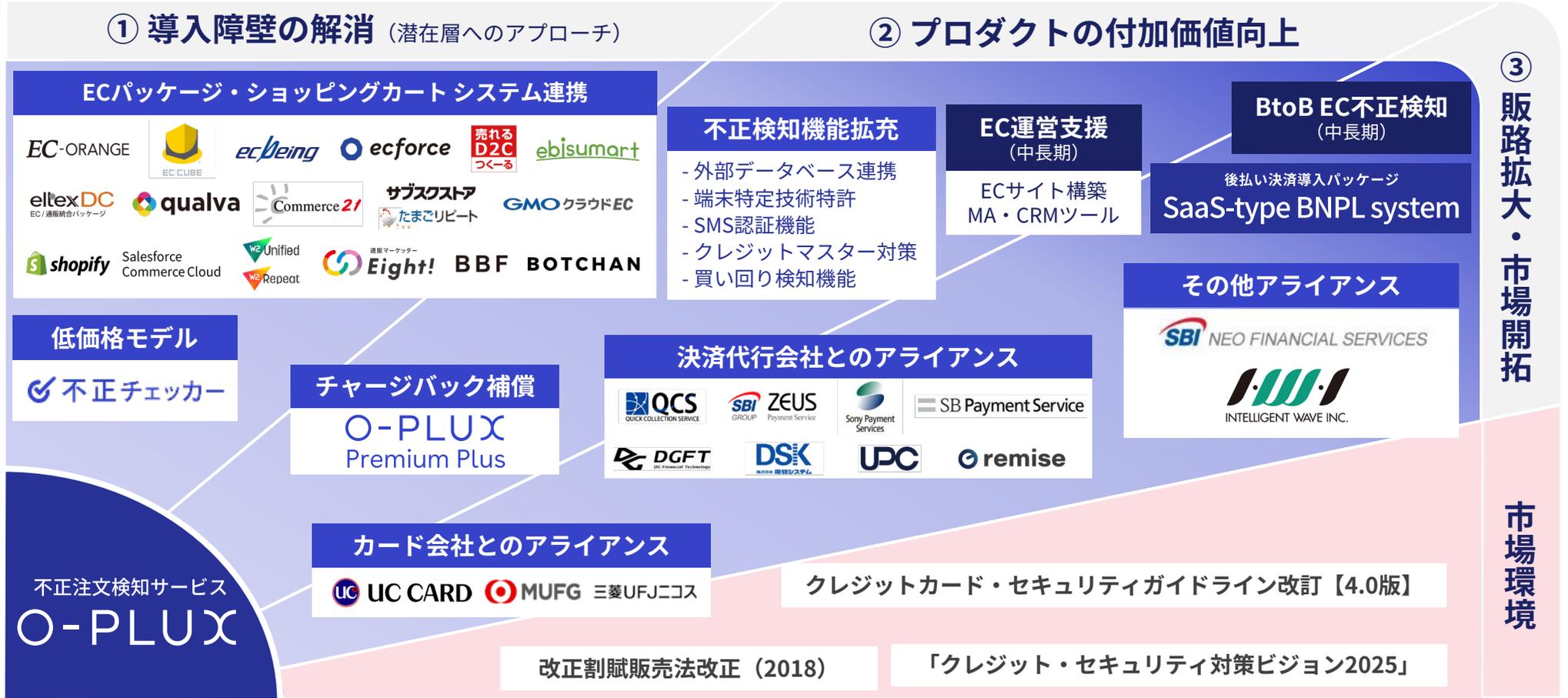
4つの成長戦略により、不正検知サービスを中心に事業拡大を加速させ、自ら市場を創出する。



成長戦略・不正検知領域の拡大 — 不正注文検知サービス「O-PLUX」のEC不正検知領域拡大戦略 —



今後、不正被害の社会問題化や規制強化等により、不正検知サービスの需要は拡大傾向。
3つの戦略により不正注文検知サービス「O-PLUX」の更なる成長を図る。



成長戦略・市場規模・日本のEC市場の成長と不正被害の拡大



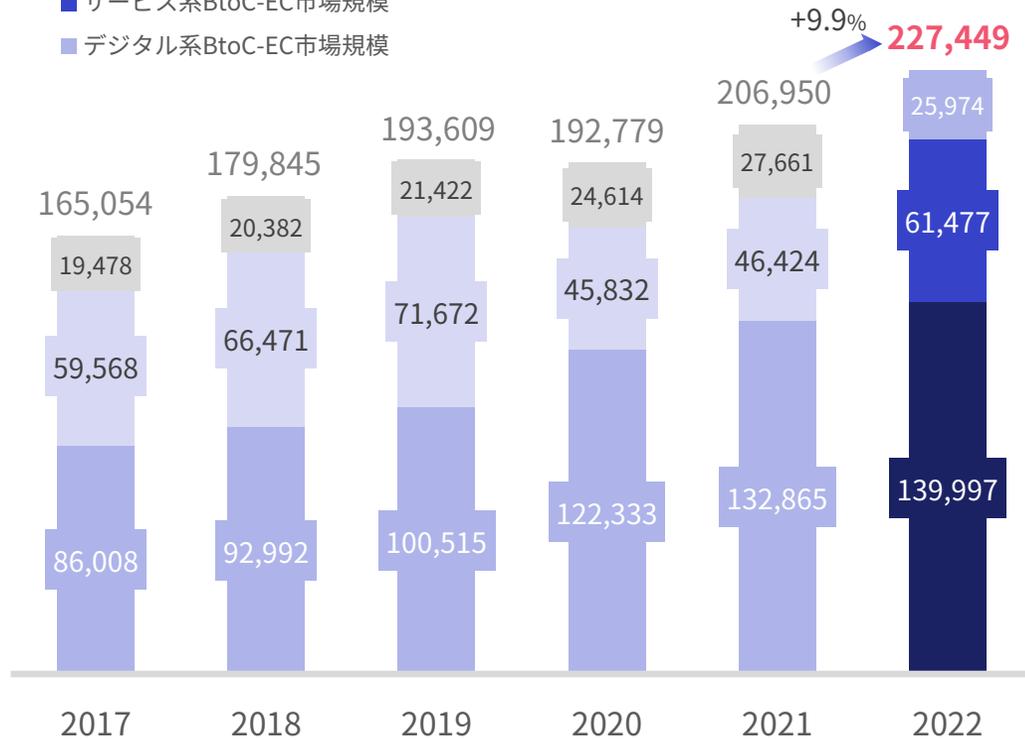
EC市場の成長に比例してクレジットカードの不正被害（番号盗用被害）が拡大。

- 割賦販売法改正、「クレジット・セキュリティ対策ビジョン2025」が公表される等、不正対策に対する社会的需要が高まっている。

日本のBtoC-EC市場規模

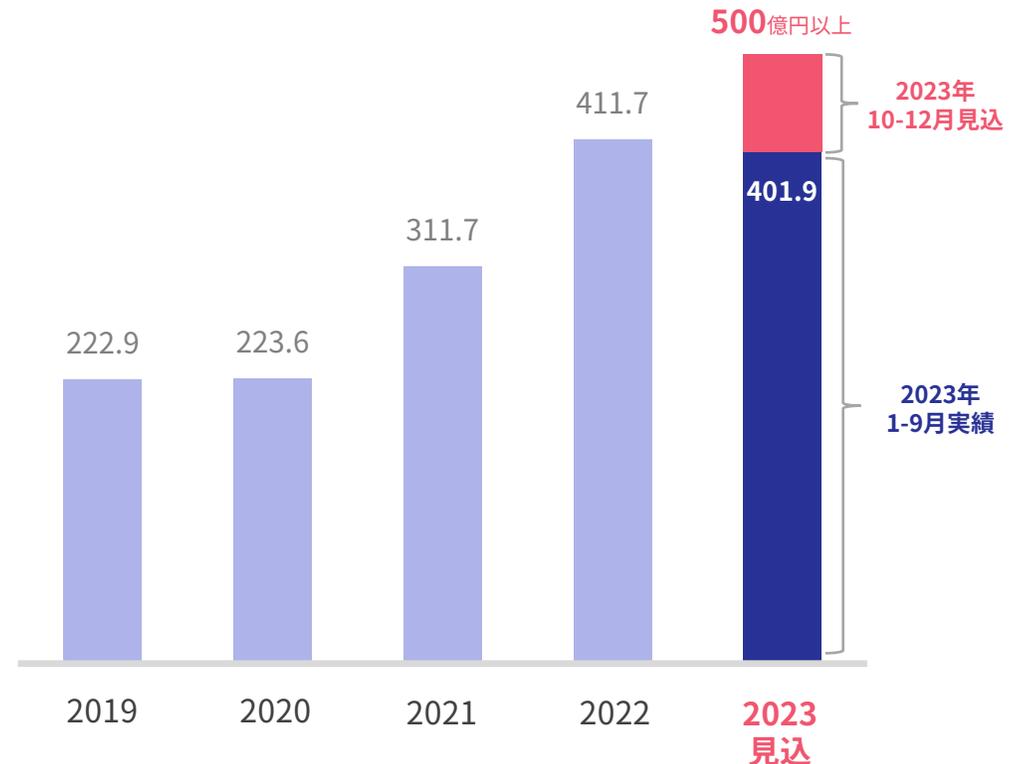
(金額単位：億円)

- 物販系BtoC-EC市場規模
- サービス系BtoC-EC市場規模
- デジタル系BtoC-EC市場規模



日本のクレカ不正被害額（番号盗用）

(金額単位：億円)



出典：経済産業省 商務情報政策局 情報経済課「令和4年度産業経済研究委託事業（電子商取引に関する市場調査）報告書」
一般社団法人日本クレジット協会「クレジットカード不正利用被害の発生状況」2023年12月

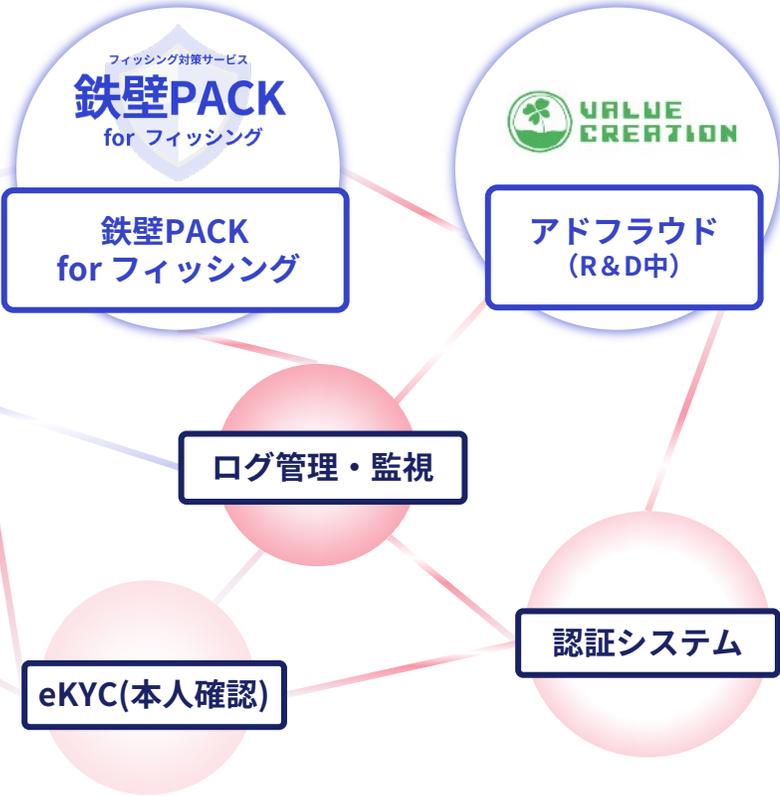
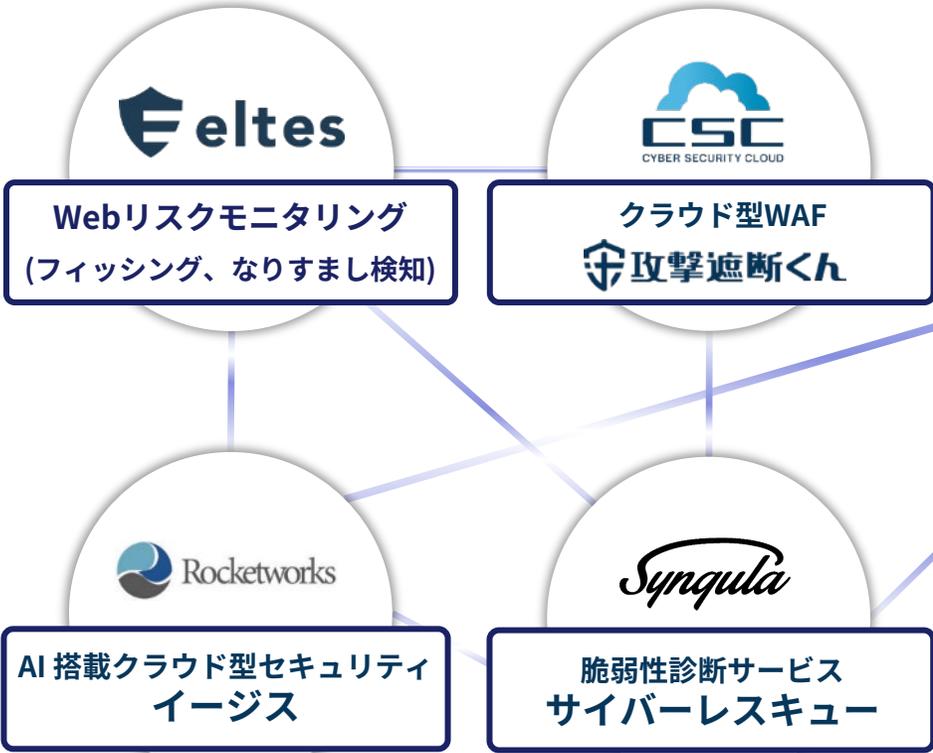
成長戦略・サイバーセキュリティ領域への拡張



技術開発とともにM&A・アライアンスも視野に入れ、サイバーセキュリティ領域への事業拡張を進める。

既存アライアンス

新領域

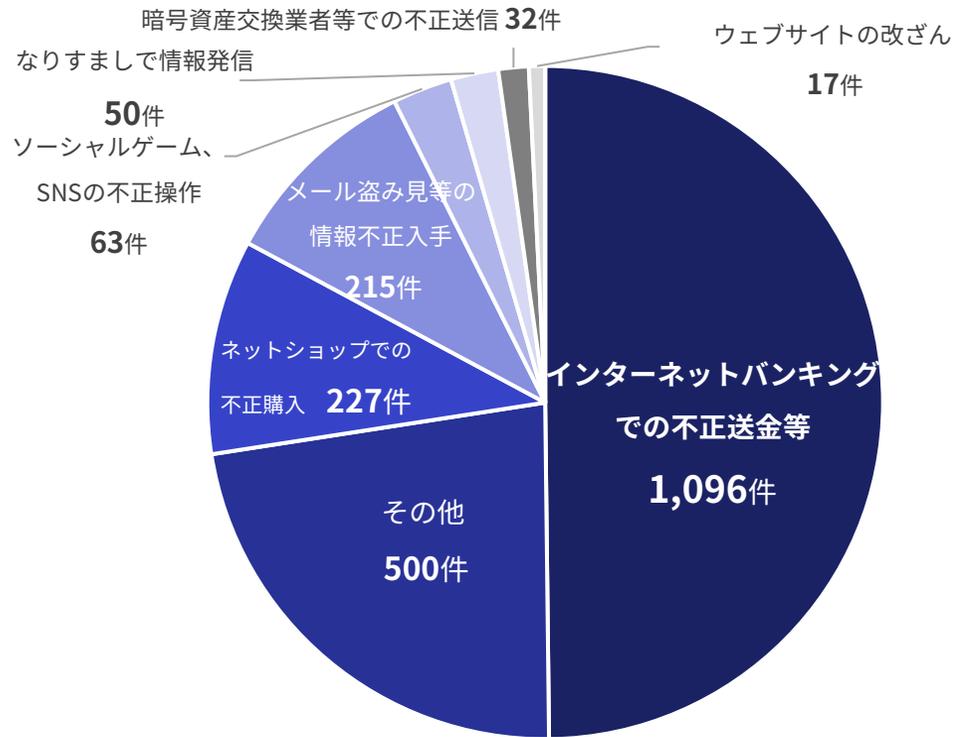


成長戦略・市場規模・フィッシング・不正アクセス被害の増加による不正アクセス対策ニーズの増加



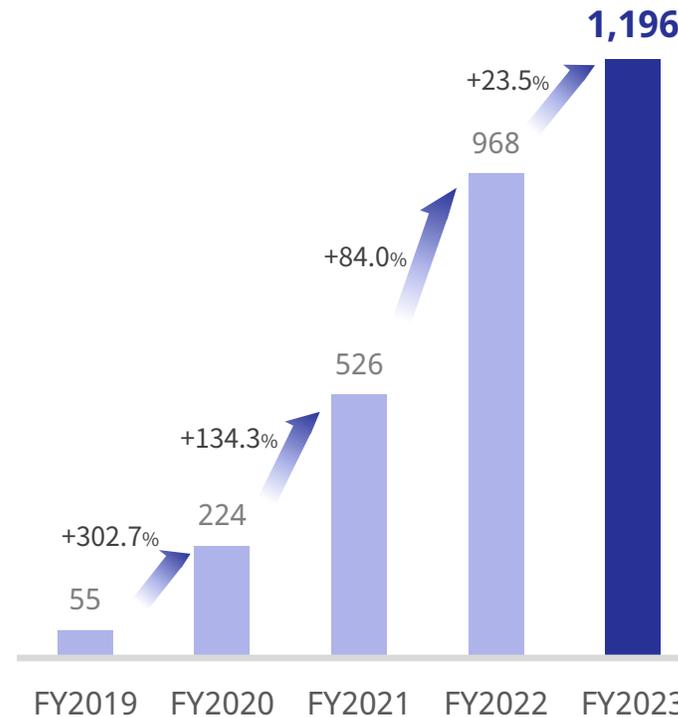
国内においてフィッシング、不正アクセスによる個人情報漏えい等の情報流出被害は後を絶たない状況であり、今後も不正アクセス被害の対策ニーズは増加が見込まれる。

国内不正アクセス行為の認知件数



フィッシング報告件数

(件数単位：千件)



当社サービスのニーズが増加

不正アクセス検知サービス
O-MOTION

金融機関・会員サイト等における不正アクセス・不正ログインをリアルタイムに検知。

フィッシング対策サービス
鉄壁PACK
for フィッシング

情報詐取の手段であるフィッシングメールやフィッシングドメイン検知、さらに詐取した個人情報で行うなりすましログインをワンストップで対策。

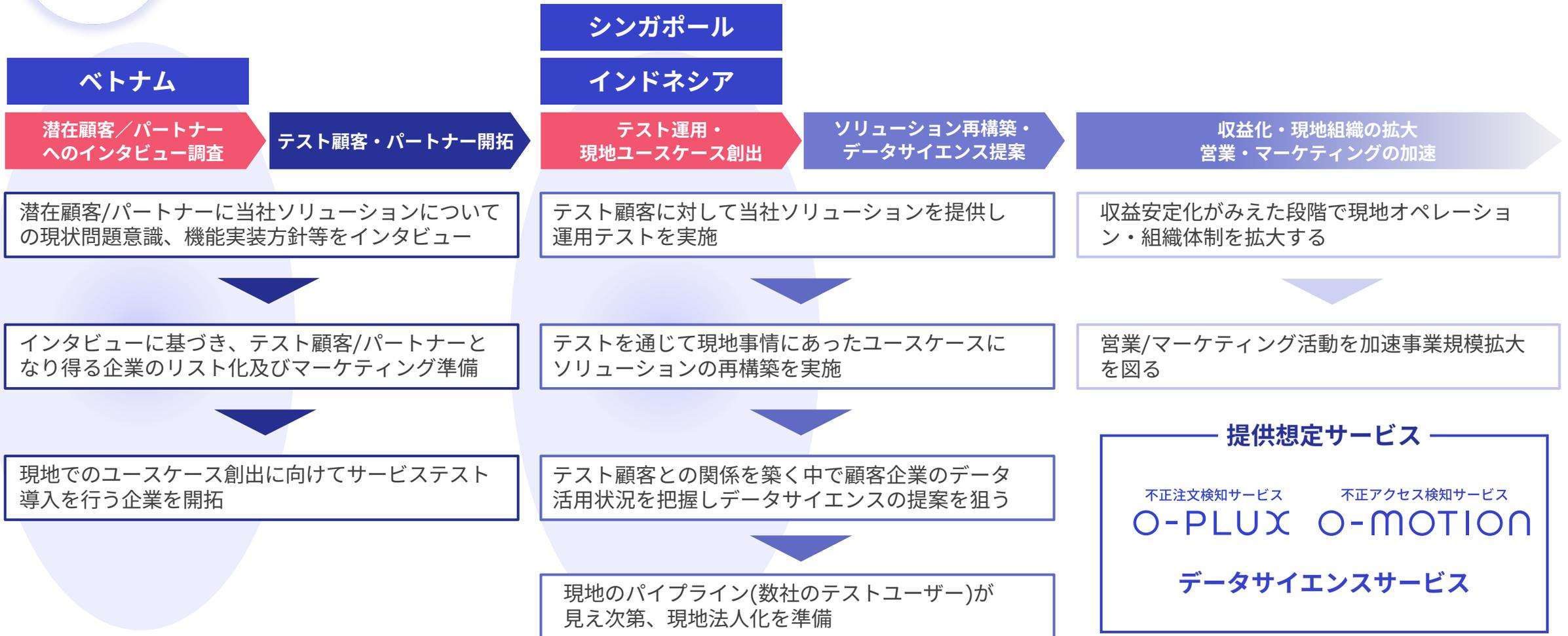
出典：警察庁・総務省・経済産業省 令和4年「不正アクセス行為の発生状況及びアクセス制御機能に関する技術の研究開発の状況(令和4年度)」

※フィッシング対策協議会「フィッシング報告件数」より

成長戦略・海外展開



インドネシアおよびシンガポールでのユースケース創出に向けて現在サービステスト導入検討企業との交渉と併行し、現地代理店が新規顧客開拓を実施中。テストユーザーと検証方法についても要件定義が進行中。また、新たにベトナムにおいて新規プロジェクトが始動。

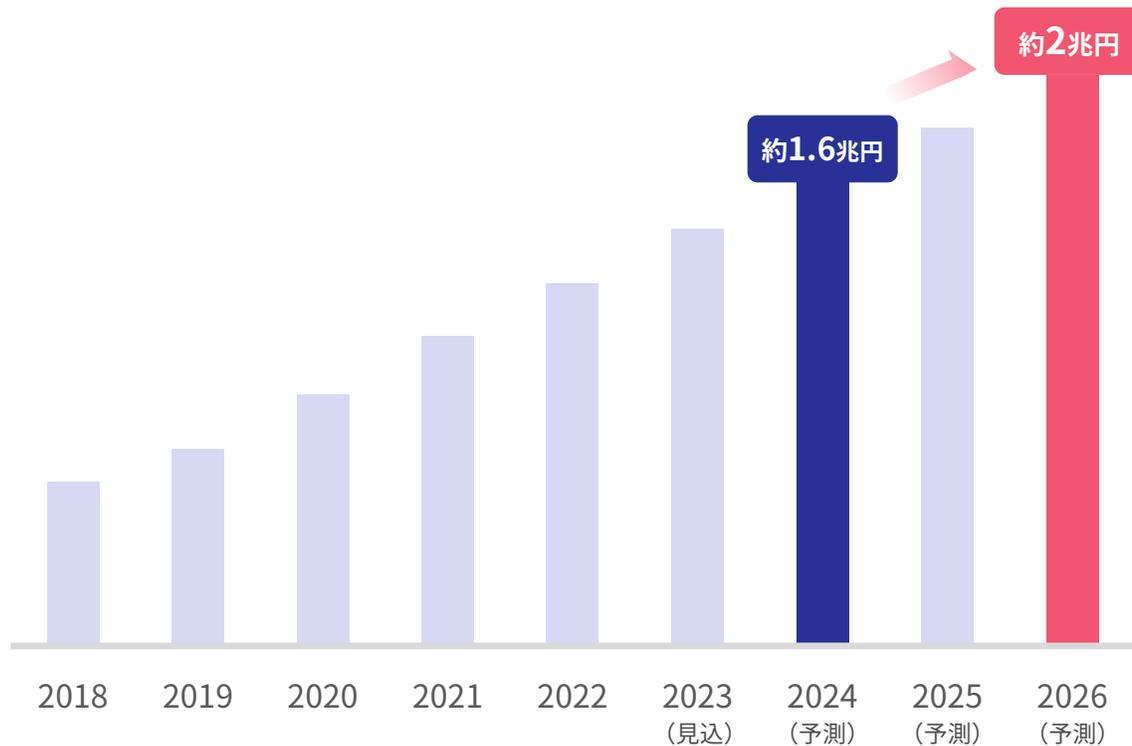


成長戦略・「SaaS型BNPLシステム」の拡販と新たなBNPL市場の創出

新規事業
領域構築

初期投資と運用コストを最小限に抑えてBNPLを決済手段に導入することが可能なSaaS型BNPLシステムで、BNPLへの参入障壁を下げこれまでBNPLに参入・導入できなかった決済事業者以外へもBNPLを展開することで、新たなBNPL市場を創出する。

国内BNPL市場推移



出典：矢野経済研究所「オンライン決済サービスプロバイダーの現状と将来予測 2023年版」

SaaS型BNPLシステムのめざすもの



東南アジアを中心とした
海外市場に向けたBNPLの展開



決済事業者だけでなく、
ECショッピングカート・大手EC事業者など
へBNPLの展開

国内BNPLの市場規模※

2026年 約**2兆円**

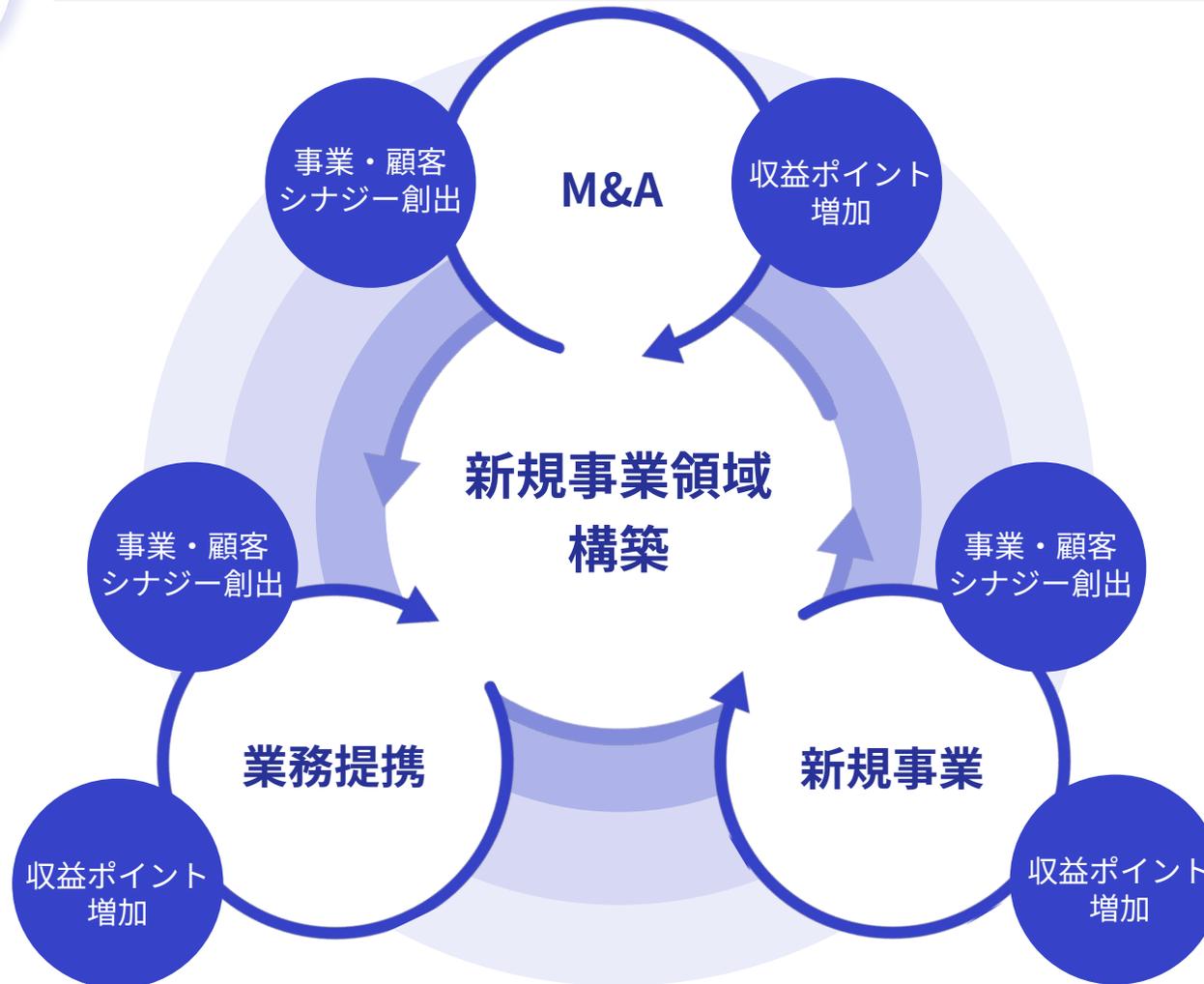
2024年 約**1.6兆円**

※出典：矢野経済研究所「オンライン決済サービスプロバイダーの現状と将来予測 2023年版」

成長戦略・業務提携・M&A等による新規事業領域の構築

新規事業
領域構築

既存の事業領域に限らず、積極的に新規の事業領域・市場獲得のために業務提携・M&A等を積極的に活用していく。



積極的に業務提携・M&Aを活用し、新規事業領域の構築を進めることで、事業間・顧客間シナジーの創出、新たな収益ポイントの増加、全社利益の拡大を狙う。また、そこで得た利益を更なる新規事業領域の獲得のための投資へと活用し、新規事業領域構築サイクルを回していく。

成長戦略・Suganuma Group.Incとの業務提携開始 (2024年2月14日付開示)

海外展開

新規事業
領域構築

人材教育サポートや、企業の海外進出サポートなどを手がけるSuganuma Group.Incと業務提携。



SUGANUMA GROUP



■ Suganuma Group.Inc

日本で70年を超える菅沼縫製グループの縫製・人材教育ノウハウをベースに、服飾企画製造事業および企業の海外人材採用および教育サポート事業を展開。

人材採用・育成に関して、ベトナム国内の数々の大学と企業の懸け橋となり、介護医療・飲食ホテル系人材やデザイン、AIサイバーセキュリティなど幅広い分野での人材育成や雇用機会の創出に取り組む。

ベトナムにおいて政府主導でビッグデータ活用の流れが強まり、データサイエンティストの需要が大幅に増加することを見込み、Suganuma Group.Incと業務提携。

これにより、双方の豊富な人材育成のノウハウと大学ネットワークを結集し、ベトナムの大学におけるデータサイエンス分野の人材教育・就業支援などの人材支援に向けたプロジェクトを始動。

Appendix



Appendix・会社概要

会社概要

社名	かっこ株式会社 (Cacco Inc.)
代表者	代表取締役社長CEO 岩井 裕之
事業内容	SaaS型アルゴリズム提供事業 (不正検知サービス、決済コンサルティングサービス、データサイエンスサービス)
資本金	376,188,635円
上場市場	東京証券取引所グロース市場 (証券コード 4166)
設立	2011年1月28日
住所・TEL	東京都港区元赤坂一丁目5番31号 TEL: 03-6447-4534
特許	特許第6534255号・特許第6534256号・特許第6860156号
認証	ISMS (情報セキュリティマネジメントシステム) ISO/IEC 27001:2013 JIS Q 27001:2014 登録番号: IA120255 プライバシーマーク® 第10824248 (05) 号

沿革

2011	1月	創業 (不正対策コンサルティング)
	11月	決済コンサルティングサービス開始 (BNPL※事業者の決済システム開発・コンサルティング)
2012	6月	不正注文検知サービス「O-PLUX」リリース
2015	1月	データサイエンスサービス開始 (小売・製造業等のデータ解析・アルゴリズム開発)
2016	7月	不正アクセス検知サービス「O-MOTION」リリース
2020	12月	東証グロース上場
2021	10月	株式会社エルテスと資本業務提携
2022	12月	後払い決済導入パッケージ「SaaS型BNPLシステム」リリース
2023	2月	バリュークリエーション株式会社と資本業務提携
	6月	フィッシング対策パッケージ「鉄壁PACK for フィッシング」リリース

※BNPL: Buy Now Pay Laterの略。後払い決済のこと。

1

データサイエンスに関する知見とセキュリティ領域における高い技術

(取得特許3件：「特許第6534255号」「特許第6534256号」「特許第6860156号」)

2

EC領域とペイメント領域における当社サービス導入数国内No.1※の実績

(※株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2023年5月末日時点)

3

中核サービスであるO-PLUXの利用拡大によるストック収益の堅調な成長

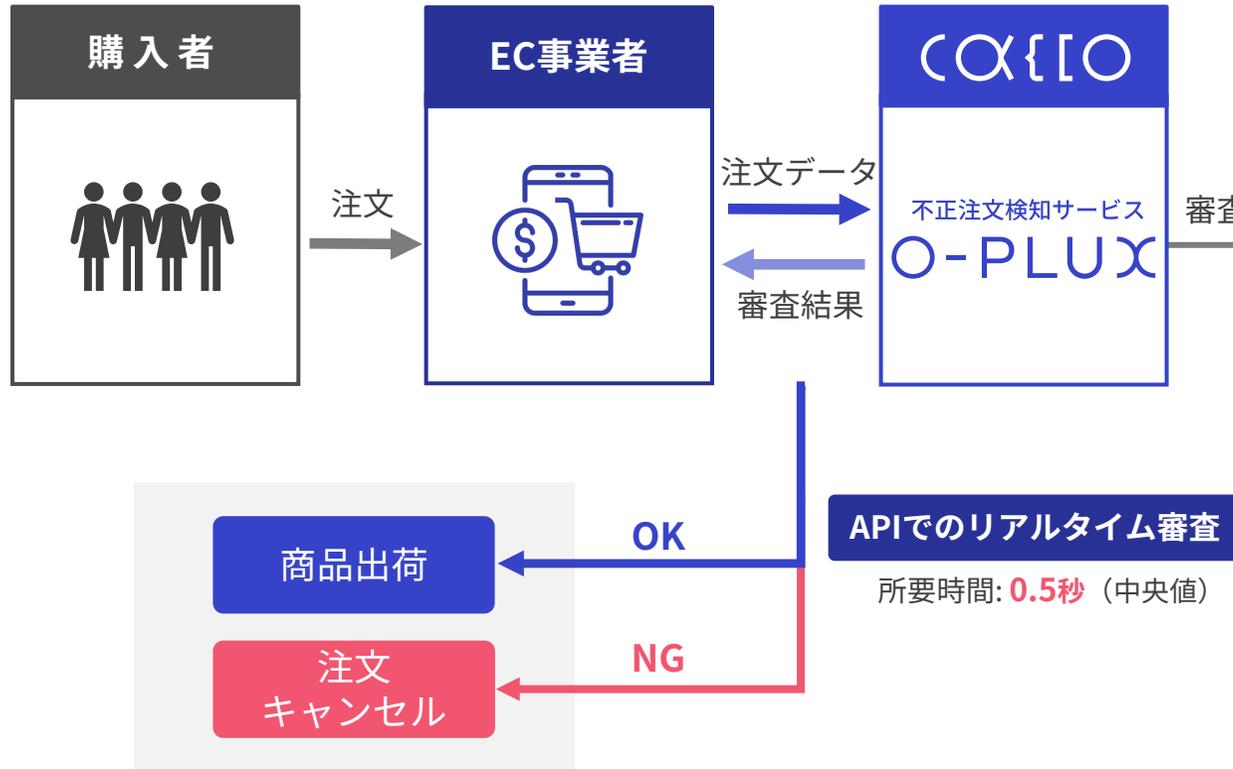
(FY2023 通期売上高全体に占めるストック収益の割合は68.4%)

Appendix • 不正注文検知サービス「O-PLUX」の概要



ECにおける代金未払い等の不正注文を独自の審査モデルでリアルタイムに検知するSaaS型サービス

審査の流れ



主な審査機能

- 名寄せ処理**
 - 異なる表記の同一住所や姓名を正規化処理して活用
ex: 赤坂4丁目3番地2号 赤坂4-3-2
 - 氏名とフリガナの不一致判定
- デバイス情報**
 - 住所確認サービス(デタラメな住所の判定)
 - IP、cookieによる同一視判定
 - 海外からのアクセス判定
 - 言語設定、タイムゾーンによる外国人のなりすまし判定 etc...
- 外部DB連携**
 - 空室の判定 (ウィークリーマンション・ホテルの判定)
 - 海外転送サービスの判定
 - 電話番号疎通の判定 etc...
- 行動分析**
 - 短期間の大量購入やなりすましなど、不正者に顕著な情報や行動パターンを分析して検知
- 共有ネガティブ**
 - 利用企業で共有されているネガティブデータベースとの一致を判定 (累計11万サイト)
 - 初回限定品の買い回り検知サービス

Appendix • 不正注文検知サービス「O-PLUX」 | 差別化要因

製品における差別化要因

1

国内不正注文データの大量保有による
高い不正検知精度 ※導入数国内No.1

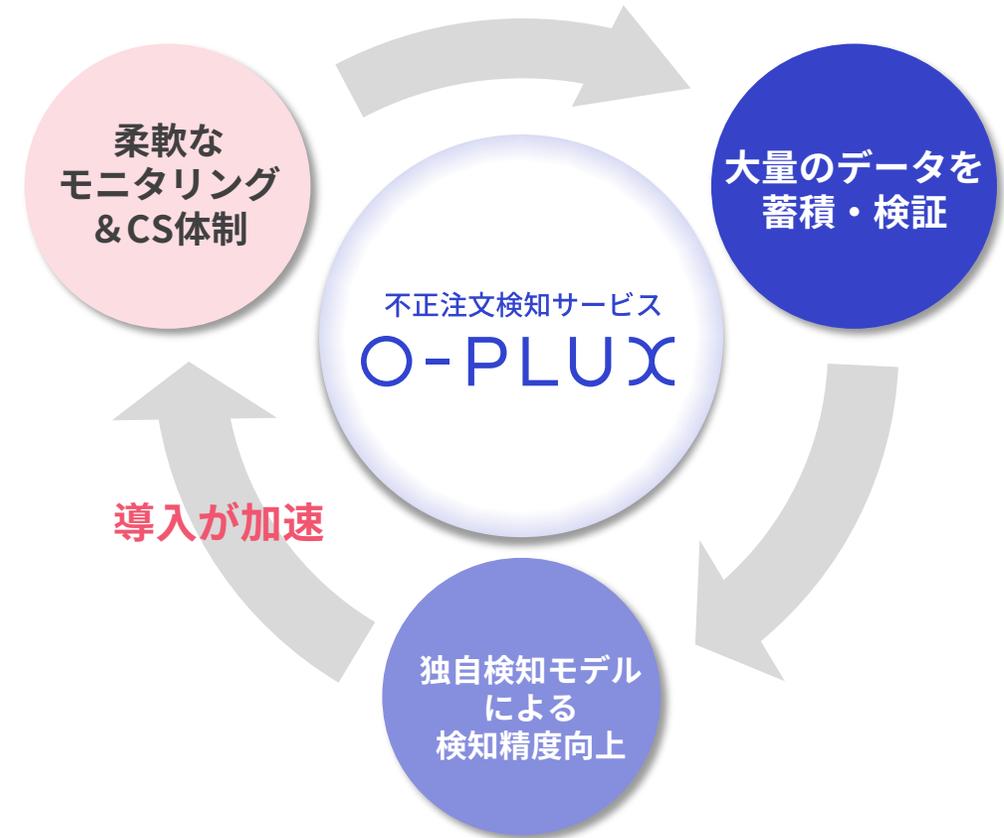
2

データサイエンス・セキュリティの技術
とノウハウで独自の検知モデルを構築

3

国内製品・自社製品ならではのスピーディ
かつ柔軟なモニタリング&サポート体制

競争優位性が維持される好循環サイクル



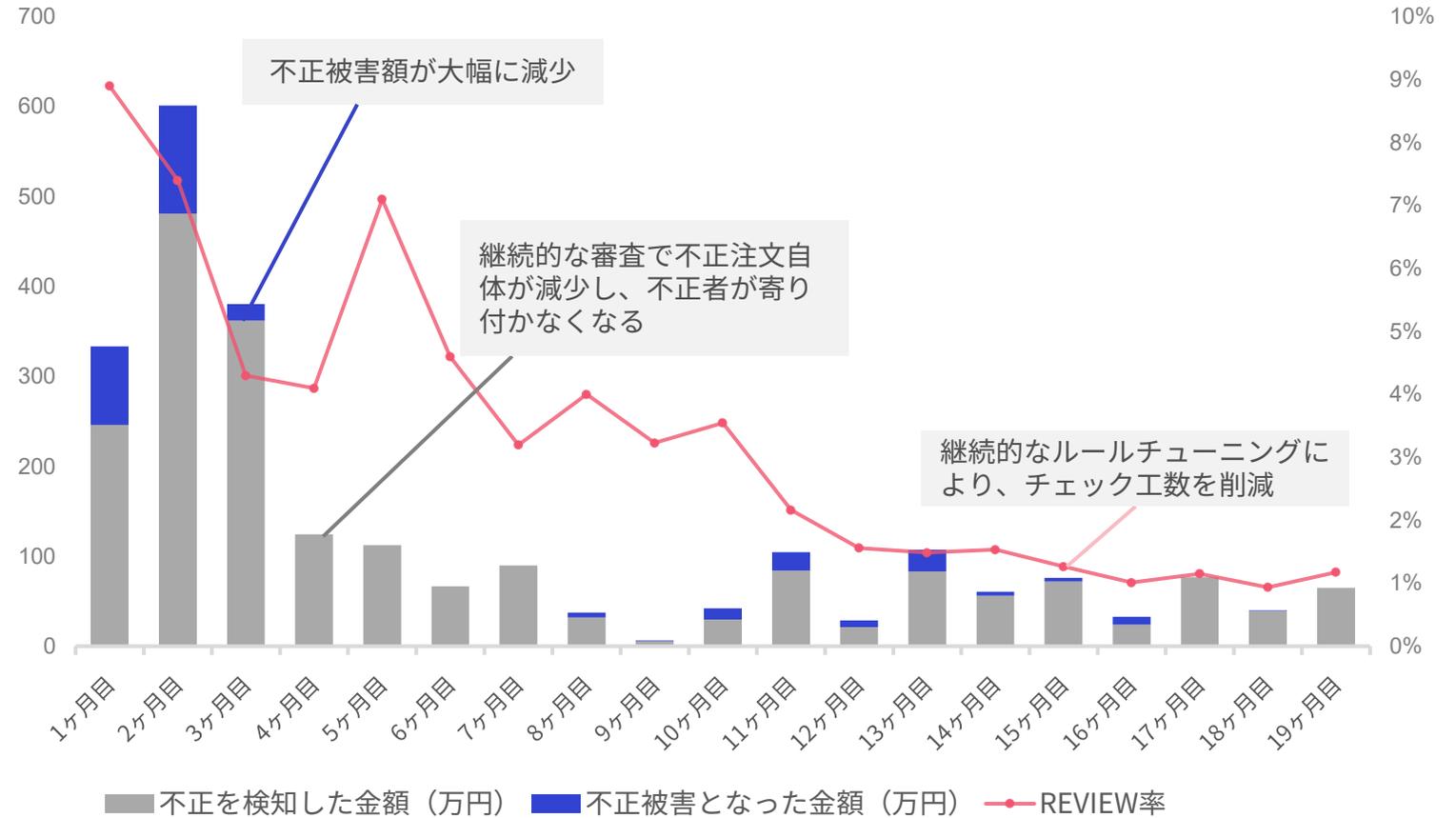
※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2023年5月末日時点

Appendix • 不正注文検知サービス「O-PLUX」 | 導入事例



「O-PLUX」によってECにおけるクレジットカードの不正利用を5年間累計で約2.5億円検知

総合小売業	
年間流通額	年間70億円
顧客の課題	ECにおけるクレジットカードの不正利用 (最大1,000万円/月)
成果	導入初年度1億円の不正利用を検知 約5年間のご利用期間で 累計約 2.5億円 を検知



※不正を検知した金額とは、審査結果「NG」または審査結果「REVIEW」でカード属性の不一致、出荷前の本人確認等によりチャージバックとなる前に不正確定（ネガティブ登録）された取引の合計金額となります。
 ※REVIEW率とは、審査件数全体に対する審査結果「REVIEW」の件数の割合となります。

Appendix • 不正注文検知サービス「O-PLUX」 | 導入企業



「O-PLUX」は、様々な業界に導入が進んでおり国内導入数No.1を獲得※1。
不正注文被害を未然に防ぐことで、電子商取引（eコマース）の安全なインフラ構築を推進。

ホビー	食品・健康食品		家電
コスメ・ヘアケア	アパレル・スポーツ		住まい・インテリア
ネットショッピングモール・MVNO・その他			映像・音響機器

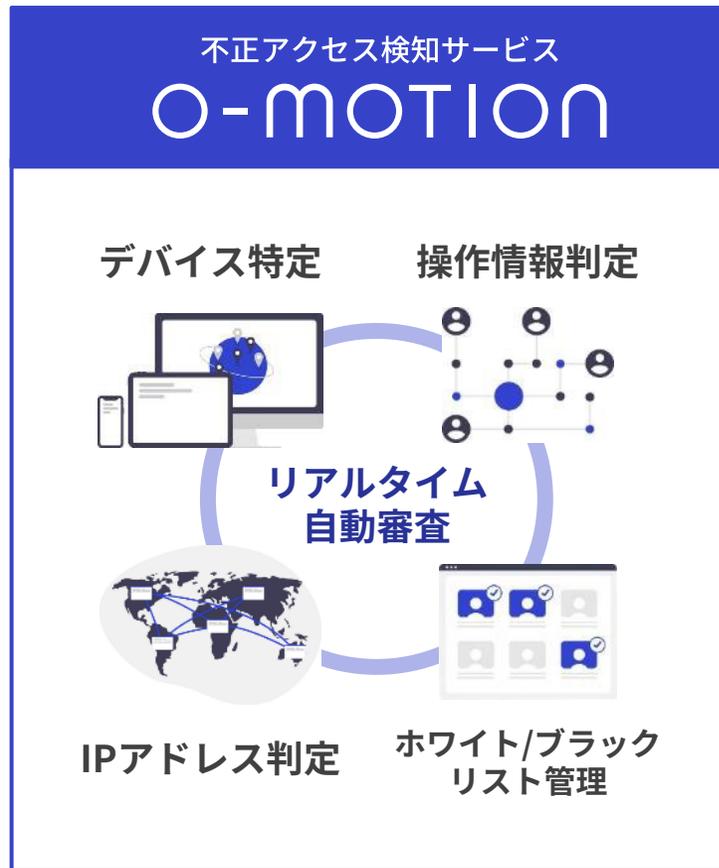
※1 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2023年5月末日時点

※2 掲載許諾を得た一部の企業のみ掲載 2023年10月末日時点

Appendix • 不正アクセス検知サービス「O-MOTION」



WEBサイトにアクセスしたユーザーの操作情報、デバイス情報等をリアルタイムに分析。他人のなりすましを識別し、不正アクセスから生じる不正行為(個人情報漏洩・不正購入etc.)を防止。

銀行・証券
不正アクセスモニタリングインターネットバンキング
不正送金対策各種会員サイト
個人情報漏えい対策オンラインチケット
不正買い占め対策クレカ/電気/ガスポイントサイト
ポイント不正交換対策アフィリエイト報酬目的の
不正会員登録対策

リアルタイム自動審査

視覚的ダッシュボード

アラートメール通知機能

高精度 かつ **効率的** な
不正審査/モニタリング体制を実現

Appendix • 不正アクセス検知サービス「O-MOTION」 | 導入企業



「O-MOTION」は、金融機関やチケットサイト、各種ポイントサイトや会員サイトに導入。

金融



チケットサイト



NFTゲーム



ECサイト



ECカート/ECパッケージ



その他社名非公開導入企業

大手銀行
ネット証券会社
クレジットカード会社 等

Appendix・フィッシング対策パッケージ「鉄壁PACK for フィッシング」



不正アクセス検知サービス「O-MOTION」をコアにしたフィッシング対策をメインとしたパッケージサービス。



Appendix ・ パートナー ・ アライアンス提携企業

今後もパートナー契約・アライアンス提携を進め、導入障壁の解消、販路拡大によりシェア拡大を図る。

ECパッケージ・ショッピングカート・チャットボット



カード会社



決済代行会社 (PSP)



セキュリティサービスベンダー



※1 EC-CUBEは株式会社イーシーキューブの商標です。
 ※2 2023年10月末日時点。

Appendix・決済コンサルティングサービス

BNPLの構築・立上げについて、サービス構築、決済システム開発、運用サポートまでワンストップで支援。
審査エンジンは不正注文検知サービス「O-PLUX」を提供。



Point 1

複数のBNPL事業の立ち上げ・システム開発の実績

- ・ 月間取引件数が数百万件規模の決済システムに関する構築実績
- ・ BNPL事業立ち上げのサポート実績（事業計画、各種要件定義作成など）
- ・ 事業開始後のサポート実績（与信、運用構築など）

Point 2

BNPLの運用経験があるコンサルタントによるサポート

BNPLの運用経験豊富なコンサルタントが、お客様の視点に立って最適な提案を実施。

Point 3

国内導入数No.1※の「O-PLUX」による不正注文検知

当社は、シビアな精度が求められる金融・決済分野で不正検知の実績をあげてきました。不正注文検知サービス「O-PLUX」は国内導入数No.1※を獲得しています。

※2023年5月末日時点（株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」）

Appendix • データサイエンスサービス

AI・統計学・数理最適化の技術をもとに、予測のモデル化や機械学習を適用した自動化など、企業活動の中核に貢献するアルゴリズムを開発・提供。

Our approach

SAKIGAKE KPI



データの集計・可視化から、要因分析、KPI算出、分析報告とその後のご提案まで実施。1億レコードまで、30営業日・200万円で提供するデータ分析サービス。

データサイエンス分室



あたかも自社の一部門の様に、データサイエンス資源を月額契約で活用可能。様々なステージの、あらゆる分析ニーズに応える「データサイエンス分室」構想を実現。

アルゴリズムの開発



人間の経験を超える最適化や、自動処理による生産性向上、需要やリスクの予測など、業務の処理において利益拡大を追求するアルゴリズムの開発。

Case studies

最適化

年商1,190億円の壁材メーカー

1700の製品・12の生産ラインにおける生産計画作成。複雑な条件を守りながら、生産量の最大化や、ロスを最小化する生産順を計画。



年間最大1.3億円コスト削減

統計・AI

年商55億円の文具メーカー

カレンダー、手帳、文具類で利益を最大化できる需要予測と、生産指示のためのアルゴリズム開発。欠品による機会損失を最小化。



販売機会損失70%削減

最適化

コールセンター

翌月の日・時間帯単位での需要を予測し、経営指標、従業員の勤務希望、労働条件といった複数の制約を満たす人員配置計画を自動生成。



年間0.6億円コスト削減

免責事項及び将来見通しに関する注意事項

本資料の作成について、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。

当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズの変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。

お問合せ・個別取材のお申込みは、下記よりIR担当までご連絡ください。

E-mail：ir@cacco.co.jp

IRサイト：<https://cacco.co.jp/ir/>

C O X { [O

未来のゲームチェンジャーの
「まずやってみよう」をカタチに